

2018

履修要覧

大 学 院
文 学 研 究 科
人間生活学研究科

院

強く、優しく。



金城学院大学

CONTENTS

I 履修要項・履修案内

1 単位計算方法について	1
講義科目／演習科目	
2 履修登録について	1
前期課程／後期課程／人間生活学研究科の履修登録	
3 授業について	2
授業時間／休講／補講／授業への出席、欠席／	
授業への遅刻、早退／証明書等の取扱いについて（まとめ）	
4 試験について	6
試験の種類と受験手続／時間割／受験時の諸注意／	
不正行為・不正レポートと罰則／レポート、修士論文・博士論文等の提出／	
5 成績評価について	9

II 学籍上の諸手続き

1 学籍異動について	10
休学／復学／退学／長期履修学生制度／在学期間延長／再入学／除籍	

III 教務事務の取扱い

1 事務取扱い時間について	12
2 学生ポータルサイト（K-PORT）による伝達・連絡について	12
3 諸届、願出について	13
4 証明書等の発行について	13

IV 大学院文学研究科

文学研究科 行事予定	16
教員組織	20
主な役職者	20
授業科目配当表	21
時間割表	30
博士課程・前期課程修了資格	32
博士課程・後期課程修了資格	32
指導教員について	33
資格取得について	33
中学校及び高等学校教諭専修免許状取得について	33
専門社会調査士について	39
文学研究科履修規程	40

V 大学院人間生活学研究科

人間生活学研究科 行事予定	44
教員組織	48
主な役職者	48
授業科目配当表	49
時間割表	56
資格取得について	60
中学校及び高等学校教諭専修免許状取得について	60
幼稚園教諭専修免許状取得について	61
公認心理師の資格について	63
臨床心理士の資格について	65
シニア産業カウンセラーの資格について	67
消費生活アドバイザーの資格について	68
消費生活相談員資格について	69
ファイナンシャル・プランナーの資格について	70
繊維製品品質管理士の資格について	71
人間生活学研究科履修規程	72

1 単位計算方法について

各授業科目の単位数は、1単位の履修時間を教室内および教室外を合わせて45時間とし、次の基準により計算するものとします。なお、90分の授業をもって2時間と計算します。

(1) 講義科目

教室内における1時間の講義に対して教室外における2時間の準備のための学習を必要とするものとし、毎週1時間15週の講義をもって1単位とします。

(2) 演習科目

① 文学研究科

教室内における1時間の演習に対して教室外における2時間の準備のための学習を必要とするものとし、毎週1時間15週の演習をもって1単位とします。

② 人間生活学研究科

教室内における2時間の演習に対して教室外における1時間の準備のための学習を必要とするものとし、毎週2時間15週の演習をもって1単位とします。

2 履修登録について

履修登録とは、学生各自が、自分の履修すべき授業科目を決定し、所定のルールと手続きにしたがって、学生本人の責任において大学に届け出る行為です。履修登録していない場合、授業に出席し試験等を受験しても、単位修得の対象になりません。

(1) 前期課程

- ① 履修登録期間内に別冊の「履修登録の手引き」にしたがって行ってください。
- ② 専攻主任が必要と認めた時は、本学の他の研究科、本研究科の他専攻の授業科目を履修することができます。
- ③ 専攻主任が必要と認めた時は、他大学の大学院または研究所の授業科目等を履修することができます。

(2) 後期課程

履修登録期間内に別冊の「履修登録の手引き」にしたがって行ってください。

(3) 人間生活学研究科の履修登録

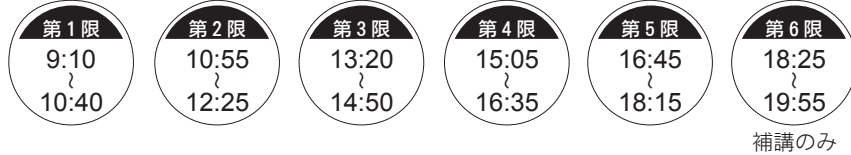
人間生活学研究科の学生については、毎学期の履修登録締め切りまでに、学則第11条別表Ⅱの授業科目の中から履修する科目を選定し、指導教員及び副指導教員の承認を受けてください。

3

授業について

(1) 授業時間

授業は、1時限90分で行われます。通常授業は、平日は第5限、土曜日は第2限までです。第6限は授業期間内の補講専用時限です。ただし、土曜日の第6限はありません。



(2) 休 講

授業担当教員のやむをえない事由あるいは暴風警報発令等により、授業を休講にすることがあります。

- ① 予め判明している休講は、事前にK-PORTで発表します。
- ② 休講の発表がない場合で、授業開始時刻から30分以上経過しても授業担当教員から教室に連絡がない場合は、履修支援センターに連絡し、指示を受けてください。
- ③ 暴風警報発令等による休講措置については、次のとおりです。

注意 Attention

暴風警報発令等による休講措置

① 東海地震に関する注意情報もしくは予知情報（警戒宣言）が発表された時

② 未明から愛知県西部の尾張東部と尾張西部のいずれかの市町村に暴風警報（暴風特別警報を含む）または暴風雪警報（暴風雪特別警報を含む）が発令
 尾張東部の市町村：名古屋市、瀬戸市、春日井市、犬山市、小牧市、尾張旭市、豊明市、日進市、長久手市、東郷町
 尾張西部の市町村：一宮市、津島市、江南市、稲沢市、岩倉市、愛西市、清須市、北名古屋市、弥富市、あま市、豊山町、大口町、扶桑町、大治町、蟹江町、飛島村

③ 未明から名古屋鉄道または名古屋市営交通が運転ストライキ実施中（集改札ストライキを除く）



休講



午前7時の時点で
解除されている

通常
授業

午前7時の時点で
解除されていない

第1限と第2限の
授業を休講

午前11時の時点で
解除されていない

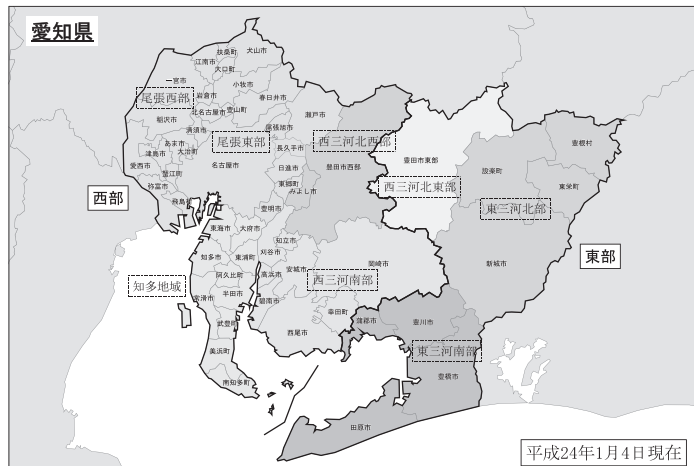
全日
休講

※事態の発生が、未明から第1限の授業開始までの場合を含む。

- 1) 第1限の授業開始以降に、②または③の事態が発生したときは、その状況を見て、学長が全学休講とするかを決定し、発表します。
※全学休講の場合は、その内容を大学ホームページで発表するとともに校内放送により通知します。

- 2) 愛知県西部の尾張東部と尾張西部の地域以外に在住する学生で、居住する地域・通学経路で暴風警報（暴風特別警報を含む）または暴風雪警報（暴風雪特別警報を含む）が発令された場合は自宅等で自己防災してください。

居住する地域・通学経路に発令された暴風警報（暴風特別警報を含む）かつ暴風雪警報（暴風雪特別警報を含む）が解除された時点で、授業が行われている場合は、安全等を確認し出校してください。出校できなかった場合は、履修支援センターで必要な手続きをすることにより欠席とはみなしません。



平成24年1月4日現在

- ④ その他、特別な事由により、学長判断で休講となる場合があります。

(3) 補 講

休講があった場合は、原則として授業が補てんされます。この補てん授業を補講といいます。

補講は、授業期間の第5限、土曜日（1～5限）、補講専用時限（第6限）および休暇期間中等に実施されることがあります。その他、暴風警報発令等の理由により全学が休講となった場合には、前・後期にそれぞれ設定されている予備日（各研究科行事予定参照）に補講を行う場合もあります。補講の実施は、事前にK-PORTで発表します。また、LMS（ラーニングマネジメントシステム）を利用した補講を行うことがあります。LMSを利用した補講については、授業担当者から案内があります。

(4) 授業への出席、欠席

① 授業への出席と単位認定について

授業には、原則としてすべて出席する必要があります。実授業回数の3分の1以上欠席した場合、当該科目の成績評価は「失格」となり、単位は認定されません。

② 授業を欠席した場合の例外的取扱いについて

以下の**a b c**の理由による場合は、(4)①の「欠席」とはみなしません。また、**d e**の理由による場合は、授業担当者の判断により、「欠席」とみなさないことがあります。欠席事由が解消した翌日から起算して7日以内に履修支援センターで手続きすることにより、**a b c e**の場合は「欠席理由証明書」を、**d**の場合は「学外実習等出席証明書」を発行します。（集中講義は**c**の場合のみ「欠席理由証明書」を発行します。）

なお、発行された証明書は、すみやかに授業担当者へ提出してください。提出期限は各授業の最終回までです。最終回の授業を例外的取扱い等に該当する理由で欠席した場合の取扱い、③を参照してください。

a 学校保健安全法施行規則第18条に規定されている感染症（4ページ参照）に感染または感染の疑いがある場合

証 明 書 医師による診断書

※ただし、日数は、学校保健安全法施行規則第19条に規定されている「出席停止の期間の基準」とする。

b 忌引きの場合

証 明 書 保証人の証明書、会葬礼状など

忌引きは二親等までとし、次に示された日数＊です。

＊葬儀の日を含む連続の日数

配偶者 10日以内

一親等の親族 血族…7日以内
姻族…5日以内

二親等の親族 血族…3日以内
姻族…2日以内

（注）生計をひとつにする姻族は血族に準ずる。

c 居住する地域・通学経路で暴風警報等が発令された場合

証 明 書 不要

d 資格取得に伴う以下の各種学外実習の期間が重なった場合

証 明 書 不要

博物館実習、早期英語教育実習、相談援助実習、保育実習（保育所・施設いずれも事前事後指導を含む）、精神保健福祉援助実習、教育実習（小・中・高・栄養は教員採用試験を含む）、幼稚園教育実習の事前事後指導、介護等体験、臨地実習

e その他教務部長が特別に認めた場合

証 明 書 理由書、主催団体等の証明書など

例：国民体育大会および選考基準がそれに準ずる全国大会に出場する場合
日本音楽コンクールおよびそれに準ずるコンクールに出場する場合
何らかの事件の証人として出廷を依頼された場合
骨髄移植のボランティアドナーとして入院を依頼された場合
事件等にまきこまれ、警察等に緊急で連絡をしなければならない場合

③ 最終回の授業に欠席した場合の取扱いについて

最終回の授業を例外的取扱い等に該当する理由で欠席し、①～③の提出物（その他は対象外）を授業担当者に渡すことのできない場合、以下の通り取扱います。ただし、試験期間内試験（16週目の試験）があり、直接授業担当者に提出することができる場合には、各自で提出してください。やむを得ない事情等により、期限までに手続きが困難な場合には、事前に履修支援センターへ相談してください。

手続きに必要な書類や注意事項等は（6）証明書等の取扱いについて（まとめ）に掲載しています。

①欠席理由証明書、学外実習等出席証明書

最終回の授業を「授業を欠席した場合の例外的取扱いについて」に該当する理由で欠席した場合は、履修支援センターに「欠席理由証明書」、「学外実習等出席証明書」を提出してください。履修支援センターが授業担当者に送付します。手続き期限は、試験期間最終日までです。

②レポート、課題等

最終回の授業を「授業を欠席した場合の例外的取扱いについて」または就職試験、通学経路での公共交通機関の事故（追試験の**b**または**f**）に該当する理由で欠席したため、授業内でのレポート・課題等の提出ができなかった場合は、履修支援センターにレポート、課題等を提出してください。履修支援センターが授業担当者に送付します。手続き期限は、試験期間最終日までです。

③遅延証明書

最終回の授業を通学経路での公共交通機関の遅延等により欠席した場合は、履修支援センターに「遅延証明書」を提出してください。履修支援センターが授業担当者に送付します。手続き期限は、試験期間最終日までです。

【学校保健安全法施行規則第18条に規定されている感染症】

学校保健安全法施行規則に指定された病名は次のとおりです。医師の診察を受け伝染の恐れがないと診断されてから登校してください。登校には、病名と出席停止期間が記載された診断書が必要です。診断書は、履修支援センターへ提出してください。

	病 名
第一種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘瘡、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎（ポリオ）、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群（SARSコロナウイルス）、南米出血熱、特定鳥インフルエンザ、新型インフルエンザ等感染症、中東呼吸器症候群
第二種	インフルエンザ、百日咳、麻疹（はしか）、風疹（三日はしか）、水痘（みずぼうそう）、流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）、咽頭結膜熱（プール熱）、結核、髄膜炎菌性髄膜炎
第三種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎

（5）授業への遅刻、早退

授業への30分以上の遅刻は、遅刻とはみなさず欠席となります。ただし、通学経路での公共交通機関の遅延等により、遅延証明書が提出された場合を除きます。遅延証明書は直接授業担当者に提出してください。遅刻は2回をもって1回の欠席となります。早退についても遅刻と同様の扱いとします。

(6) 証明書等の取扱いについて（まとめ）

授業を例外的取扱いにより欠席した場合の証明書（3 ページ ②授業を欠席した場合の例外的取扱いについて）

注意：再発行はできません。発行後はすみやかに授業担当者に提出してください。

発行期間内に手続きができない場合は、期限内に履修支援センターに申し出てください。

欠席理由 証明書	発 行	窓 口：履修支援センター 期 間：欠席事由が解消した翌日から起算して7日以内。 条 件：3 ページ ② a b c e の理由 必要書類：欠席事由により異なります。
	提 出	提出先：各授業担当者 期 限：最終回の授業まで
	取扱い	a b c は欠席とみなさない。e は授業担当者の判断による。
学外実習等 出席証明書	発 行	窓 口：履修支援センター 期 間：欠席事由が解消した翌日から起算して7日以内。 条 件：3 ページ ② d の実習
	提 出	提出先：各授業担当者 期 限：最終回の授業まで
	取扱い	授業担当者の判断による。

授業に公共交通機関の遅延により遅刻した場合の証明書（4 ページ (5) 授業への遅刻、早退）

注意：通学経路での遅延等に限ります。

遅延証明書	発 行	窓 口：各公共交通機関 期 間：各公共交通機関により異なります。
	提 出	提出先：各授業担当者 期 限：最終回の授業まで（原則は当日授業または次回授業まで。）
	取扱い	遅刻とはみなさない。（遅延時間によっては欠席とはみなさない。）

最終回の授業を例外的取扱い等により欠席した場合に提出できる証明書、レポート、課題等

（4 ページ ③最終回の授業を欠席した場合の取扱いについて）

注意：授業担当者に提出できる場合は、各自で提出してください。下表のもの以外は受取れません。

試験等が実施されていた場合、課題等が課されることがあります。その場合はK-PORTで連絡します。

欠席理由 証明書	発 行	期 間：欠席事由が解消した翌日から起算して7日以内。ただし、試験期間最終日まで。
学外実習等 出席証明書	提 出	提出先：履修支援センター 期 限：各期の試験最終日まで
遅延証明書	提 出	提出先：履修支援センター 期 限：各期の試験最終日まで
レポート 課題等	条 件	4 ページ ③または6 ページ「追試験」bまたはfに該当し、提出日が最終回の授業のもの。
	必要書類	「欠席理由証明書」、「学外実習等出席証明書」、「遅延証明書」または追試験手続き書類。
	提 出	提出先：履修支援センター 期 限：各期の試験最終日まで
	注 意	最終回の授業より前に提出機会があったにもかかわらず、提出しなかった場合は受取れません。

4

試験について

試験方法には、筆記試験のほか、プレゼンテーション、レポート提出、論文提出、作品提出、実技、実験、実習などがあります。

(1) 試験の種類と受験手続



①
授業期間内
試験

授業期間内試験とは、通常授業期間中に実施される試験です。

試験の詳細は、授業担当者から指示があります。

原則として追試験（**③**追試験を参照）の対象にはなりませんので、各教員の指示に従ってください。



②
試験期間内
試験

試験期間内試験とは、試験期間中（16週目）に実施される試験です。

試験の詳細は、事前にK-PORTで発表します。

追試験（**③**追試験を参照）の対象になります。



③
追試験
手続必要

追試験とは、以下**a**～**h**の理由によって、試験期間内試験を受験できなかった学生で、所定の期日までに必要な手続きを行い、教務部長が認めた場合に実施される試験です。詳細はK-PORTで確認してください。なお、追試験料は無料です。

a 資格取得に伴う以下の各種学外実習の期間が重なった場合 **証明書** 不要

博物館実習、早期英語教育実習、相談援助実習、保育実習（保育所・施設いずれも事前事後指導を含む）、精神保健福祉援助実習、教育実習、幼稚園教育実習の事前事後指導、介護等体験、臨地実習

b 教員採用試験、保育士試験、図書館司書講習、就職試験が重なった場合

証明書 受験先の証明書または受験票（受講許可証）の写し

c 文化・スポーツおよび社会的活動の全国大会以上出場、もしくは、そのための公的機関が実施する強化合宿等の日程が重なった場合

証明書 当該大会等を主催する公的機関の証明書

d 居住する地域・通学経路で暴風警報等が発令された場合 **証明書** 不要

e 病気・ケガの場合 **証明書** 医師による診断書または保健センター利用証明書

f 通学経路での公共交通機関の事故（自家用車による通学での事故等は認められない）の場合

証明書 遅延証明書、警察による事故証明など

g 忌引きの場合 **証明書** 保証人の証明書、会葬礼状など

忌引きは二親等までとし、次に示された日数*です。

* 葬儀の日を含む連続の日数

配偶者 10日以内

一親等の親族 血族… 7日以内
姻族… 5日以内

二親等の親族 血族… 3日以内
姻族… 2日以内

（注）生計をひとつにする姻族は血族に準ずる。

h その他正当と認められる理由の場合 **証明書** 保証人連署の理由書など

事前に履修支援センターに問い合わせてください。

注意 Attention

- ① 集中講義の試験は、16回目に実施することがあります。
- ② 試験教室は、授業の教室と異なる場合があります。
- ③ 追試験を欠席した場合の追試験は実施しません。

(2) 時間割

【試験期間内試験】

	第1限	第2限	第3限	第4限	第5限
入室時刻	9:10	10:55	13:20	15:05	16:45
試験開始時刻	9:20	11:05	13:30	15:15	16:55
遅刻限度時刻	9:40	11:25	13:50	15:35	17:15
試験終了時刻	10:20	12:05	14:30	16:15	17:55

- ① 試験時間割は、授業時間割に準じます。
- ② 試験時間は原則60分です。
- ③ 入室時刻までに着席してください。
- ④ 遅刻限度時刻以降の入室は認められません。

【授業期間内試験】

授業時間内に行われます。詳細は授業担当者の指示に従ってください。

(3) 受験時の諸注意

次の受験時の諸注意は必ず守ってください。なお、まぎらわしい行為は不正行為とみなされる場合があるので、受験の際は、他から疑問をいだかれるような行為はとらないようにしてください。

【試験期間内試験】

- ① 学生証を必ず携帯し、試験中は写真の面を上にして机の上に提示し、試験監督者が確認しやすいように置くこと。
- ② 学生証を忘れた、または紛失した場合は、受験前に履修支援センターへ願い出て、受験許可証を発行してから受験すること。なお、受験許可証は、発行日のみ有効であり、使用後は当日中に必ず履修支援センターへ返却すること。
- ③ 携帯電話は、電源を切ってカバンに入れること。時計はアラーム音を切ること。試験中に鳴った場合は、退室を命じられます。
- ④ 机の上には、学生証、鉛筆類、消しゴム、鉛筆削り、時計（ただし、計算機能や翻訳機能つきの時計を除く）、めがね、持込み許可物件以外のものは置かないこと。なお、必要なものがある場合には、事前に試験監督者に許可を得ること。
- ⑤ 机の中には何も入れないこと。試験に不要な物は、カバン等に入れて、椅子の下に置くこと。
- ⑥ 試験教室においては、常に試験監督者の指示に従うこと。指示に従わない場合は、退室を命じられます。

【授業期間内試験】

原則として試験期間内試験の内容に準じますが、詳細は授業担当者の判断に依ります。授業担当者の指示に従ってください。

(4) 不正行為・不正レポートと罰則

注意 Attention

成績評価につながる全ての試験は、評価の割合にかかわらず、静粛かつ公正に行われるべきと考えます。不正行為を行った者を、学則第35条に基づき、譴責、停学、退学のいずれかの懲戒に付します。同時に、その学期の全科目の成績評価を「失格」とします。

1 不正行為について

試験中に不正行為を行ったと認められた学生は、直ちに受験を停止し、試験監督者の指示に従わなければなりません。

以下の場合、不正行為にあたります。

- a) 他人の答案用紙をのぞいたり、他人と答案用紙を交換した場合
- b) 他人と話をした場合
- c) 当該試験科目に関係したものであるか否かを問わず、不正行為物件（カンニングペーパー、スマートフォン等の通信可能な端末、デジタルオーディオプレーヤー等の不正行為に使用できる全ての用具をいう）を所持していた場合
- d) 本人が書いたか否かを問わず、机上等に当該試験科目の内容が書いてある場合
- e) 代理受験を行ったり、依頼をした場合
- f) 持ち込みが許可されている物の貸借をしていた場合
- g) その他、試験監督者が不正行為と認めた場合

2 不正レポートについて

書籍、論文、新聞、ホームページ、他の学生が書いたレポート等に記載されたものを、出典を明らかにせずに用いる等、剽窃（ひょうせつ）した箇所があるレポートは不正レポートとみなし、提出者の当該科目の成績評価を「失格」とします。

なお、他人のレポートを丸写ししたり、他人にレポート作成を依頼するなど、悪質な不正レポートと認められる場合は、不正行為とみなします。

※不正レポートとみなされないための注意

自分の意見を述べるために、必要な範囲で他の著作物から引用する場合は、引用箇所を「」で囲むなどして明示するとともに、出典を明らかにする必要があります。以下に引用の仕方の一例を記します。このような形で記述すれば、不正レポートとみなされることはありません。なお、専門分野によって表記の方法が異なるため、当該科目の担当教員の指示に従ってください。

《引用の仕方の例》

（例）金城花子（2008）は、「……」と述べている。一方、金城すみれ（2009）は「……」と述べている。

引用文献

- 1) 金城花子（2008）、書名、〇〇出版社、pp.100-112
- 2) 金城すみれ（2009）、サイト名、<http://www.kinjo-u.ac.jp/kyoumu-sample.html>

（最終アクセス日 2009/07/10）

（注）引用文献は文末に示すことが一般的です。

（5）レポート、修士論文・博士論文等の提出

1 レポートの提出について

- a) レポートには、表紙をつけ、右の見本のように各項目名を記載してください。
- b) レポートは、インク、ボールペン、パソコンを用いて作成してください。
- c) レポートは、指定された提出先に期限を守って提出してください。
- d) レポートは、ラーニングマネジメントシステム manaba による提出とします。以下の事項に注意してください。

- ・レポートを manaba にアップロードしただけでは提出はできていません。必ず提出（ボタン）を押してください。
- ・一度提出したレポートは、修正や再提出ができない場合があります。

※ manaba の操作方法等については、manaba ログイン後に画面の下部に表示される「マニュアル」ボタンよりマニュアルをダウンロードして確認してください。

- e) 紙面による提出の指示がある場合は、ホッチキスやひもなどで綴じてから提出してください。

見本A 4判（例）

年度、学期、履修クラス

科目名、担当教員名

レポート題目

（必要に応じて副題目）

所属学科、学年、組、学籍番号

氏名（必要に応じてローマ字名も）

注意 Attention

履修支援センターのレポート受理について

授業担当者が提出先を履修支援センターと指定したレポートに限り受理します。
履修支援センターのレポート提出ボックスで回収する場合の提出期限は、提出締切日の15:30です。
郵送によるレポート提出は受け付けられないので注意してください。
また、授業担当者に直接提出するレポートについては、途中の事故を防ぐため、履修支援センターでは一切取り扱いません。授業担当者の指示に従ってください。ただし、最終回の授業に欠席した場合のレポートの取扱いについては4ページを参照してください。

2 修士論文・博士論文の提出について

修士論文・博士論文は、指定された期日までに履修支援センターへ提出してください。郵送によるものは受理しませんので注意してください。
その他提出に係る詳細は、K-PORTなどで通知されます。

5 成績評価について

履修した授業科目は、通年科目の場合は年間の成績で単位認定され、半期科目の場合は半年間の成績で単位認定されます。

いったん認定された単位の取消しおよび成績評価の変更はできません。

① 成績評価と合否の別および単位認定の可否については次のとおりです。

合格 単位認定可	成績評価等	成績評価の内容
	A	80点～100点
	B	70点～80点未満
	C	60点～70点未満
不合格 単位認定不可	成績評価等	成績評価の内容
	F	60点未満
	失	実授業回数の3分の1以上欠席した場合等 不正行為を摘発された場合
保留 単位認定保留	成績評価等	成績評価の内容
	保	授業料等の学納金が未納の場合等

- ② 成績の結果は、指導教員等が成績単位修得通知表を学生個人に渡すことによって発表されます。（口頭では一切行いません。）成績の結果発表（成績単位修得通知表発行日）は、在学生オリエンテーション時に行います。日程は、行事予定を参照してください。なお、後期の在学生オリエンテーションを行わない場合は、K-PORTによって結果発表をします。
- ③ 成績問い合わせは、原則として、成績単位修得通知表の発行日より1週間以内（最終日が休日の場合、その翌日）に、履修支援センターで受け付けます。後期の在学生オリエンテーションを行わない場合も同様です。修了予定者発表日に成績単位修得通知表を受け取る後期課程3年生、前期課程2年生の成績問い合わせは、K-PORTで別途案内します。

1

学籍異動について

学生の身分に関する異動（学籍異動）には、休学、復学、退学、長期履修学生制度、在学期間延長、再入学、除籍等があり、事情および必要に応じて願い出ることができます。いずれの場合にも、研究科委員会の承認が必要となるので、事前に指導教員とよく相談して進めるようにしてください。各所定の願（様式）は指導教員と相談後、履修支援センターでお渡しします。

（１）休学

病気またはその他のやむをえない理由により、修学困難な期間が2カ月以上となるような場合は、休学を願い出ることができます。休学期間は半期または1年間です。休学を願い出の場合は、保証人（保護者）連署の上で、本学所定の休学願を提出してください。

- ① 入学初年次の前期については、その理由が病気又は留学の場合を除き休学は許可されません。
- ② 休学期間中は、授業料等の学納金に代えて在籍料を納付してください。授業開始8週間以内に休学を願い出た場合の在籍料は、半期50,000円です。また、授業開始8週間を経た後に休学を願い出た場合の当該学期の在籍料は、授業料の半額相当額です。
- ③ 在学期間の延長をした者が休学する場合の在籍料は、半期50,000円です。
- ④ 休学の理由が病気の場合は、医師の診断書を添えてください。
- ⑤ 休学は、1年以上にわたることができません。ただし、特別な事情がある場合は、引き続き許可されることがあります。
- ⑥ 休学期間は、通算して、前期課程においては2年、後期課程においては3年を超えることはできません。ただし、2016年度以降の入学生に適用されます。
- ⑦ 休学期間は、在学期間に含まれません。

（２）復学

休学が終了した場合（休学期間中に休学の理由が解消した場合を含む）は、保証人（保護者）連署の上で、本学所定の復学願を提出してください。

病気による休学の場合は、復学可能であることを証明する医師の診断書を添えてください。

（３）退学

病気またはその他のやむをえない理由により退学を願い出の場合は、保証人（保護者）連署の上で、本学所定の退学願を提出してください。

- ① 納付済みの授業料等の学納金は、事情の如何にかかわらず返却されませんので、注意してください。
- ② 退学年月日は、原則として授業料等納入期の終了の日となります。ただし、授業料等納入済みの学期の途中で退学する場合は、この限りではありません。
- ③ 後期課程における満期退学の場合も、退学願を提出する必要があります。

（４）長期履修学生制度

長期履修学生制度とは、職業、出産、育児、介護、その他学業に専念できない事情等により標準修業年限（前期課程2年、後期課程3年）を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し、課程を修了することを希望する場合に、その計画的な履修を認める制度です。長期履修の開始

日は年度始めとし、前期課程では4年、後期課程では6年を超えることはできません。希望者は、指導教員の承認を得て、本学所定の長期履修申請書および指定の書類を期日までに提出してください。

- ① 長期履修期間中に、就業環境の変化等により必要が生じた場合には、長期履修期間の変更（短縮又は延長）を申請することができます。（ただし、2017年度以降の入学生は1回限り）
- ② 修業年限の延長を希望する場合、その適用を開始する年度から起算し、残りの修業年数が1年に満たない場合は、申請できません。
- ③ 2017年度以降の入学生が、在学途中から新たに長期履修を申請する場合、延長できる修業年数は、残りの修業年数の2倍に相当する年数以内です。
- ④ 学納金のうち授業料及び施設設備費は、標準修業年限に支払うべき授業料及び施設設備費の総額を、あらかじめ認められた修業年限で除した額をそれぞれの年（学期毎）に支払うこととなります。
- ⑤ その他、長期履修学生制度についての詳細は、履修支援センターに問い合わせてください。

（5）在学期間延長

後期課程において標準修業年限を満了し、修了に必要な単位を修得した者のうち、博士論文提出のために引き続き在学を希望する者については、在学期間の延長を認めることがあります。希望者は、指導教員の承認を得て、本学所定の在学期間延長申請書を期日までに提出してください。

（6）再入学

いったん本大学院を退学したものの、再び本大学院での修学を希望する場合は、再入学を願い出すことができます。再入学を願い出る場合は、保証人（保護者）連署の上で、本学所定の再入学願を提出してください。

- ① 退学の理由が正当なものでない場合は、再入学が許可されないことがあります。なお、学則第31条2項に基づき満期退学となった者、学則第35条及び第36条に基づき退学となった者は再入学できません。
- ② 再入学は、各年度初めに限られます。再入学願は1月1日から1月31日までの事務取扱日に提出してください。
- ③ その他、再入学についての詳細は履修支援センターに問い合わせてください。

（7）除籍

次のいずれかに該当した者を、除籍することがあります。

- ① 学則第7条第2項に定める在学年限を超えた者
- ② 学則第29条第3項第4項に定める休学の期間を超えてなお復学できない者
- ③ 授業料及びその他の所定の学納金の納付を怠り、督促してもなお納付しない者
- ④ 長期間にわたって行方不明の者
- ⑤ 在学中に死亡した者

1

事務取扱い時間について

事務の取り扱い時間は、次のとおりです。必ず時間を守ってください。
電話・メールでの問い合わせは原則として受け付けていません。

平日

午前 9 時より午後 4 時45分

土曜日

大学の
休業日

原則として取り扱いはしません

2

学生ポータルサイト (K-PORT) による伝達・連絡について

履修支援センターからの通知・連絡は、原則、K-PORTによって行いますので、**毎日必ず確認してください**。K-PORTへは大学ホームページ (<http://www.kinjo-u.ac.jp/>) のメニュー「在学生の方」からアクセスしてください。K-PORTでは個人に届くお知らせと、K-PORT内のLinkに掲載することでみなさんに情報をお知らせする方法があります。全体に関わる内容について（試験や在学生オリエンテーション等）はLinkに掲載します。イベントによって、イベント名のLinkがあるものとLink履修支援に掲載するものがあります。適宜、各Linkを確認してください。

また、K-PORTには連絡機能以外にも教務関係の重要な機能があります。主な機能については下記を参照してください。

●K-PORTでの連絡事項

【個人に届くお知らせ】

- ・履修科目の休講、補講、教室変更等
- ・個人向けのお知らせや呼び出し等

※個人に届くお知らせは、転送設定をすることで、登録したアドレスにメールが届きます。

【Link履修支援に掲載されるお知らせ等】

- ・授業に関わるお知らせ
- ・年度初めの行事予定について
- ・博士論文、修士論文について
- ・オリエンテーションについて
- ・集中講義日程
- ・各種印刷物データ（履修要覧）等

【その他Linkに掲載されるお知らせ】

- ・試験関係
- ・施設配置図
- ・修了予定者へのお知らせ
- ・修了予定者発表 等

●K-PORTの機能等

- ・履修登録
- ・シラバス確認
- ・成績確認
- ・時間割確認
- ・休講・補講確認
- ・時間割・教室利用検索
- ・連絡事項確認
- ・各種Link等

※暴風警報発令等による休講措置は大学ホームページでお知らせします。

Reference

大学からの連絡ツール/K-PORTの機能について

K-PORT以外のツールでも重要なお知らせをすることがあります。大学からの情報提供やK-PORTの機能についての詳細は、本学発行の学生ハンドブック「Printemps（プランタン）」を参照してください。

注意 Attention

K-PORTに掲載された内容についての質問等は窓口で受け付けます。電話、メールでの問い合わせには応じませんのでご注意ください。K-PORTで不具合が発生した場合、大学ホームページでお知らせします。K-PORT及び大学ホームページ「在学生の方」を確認しなかったことによる不利益や公示されたことに対する責任を免れることはできませんので、必ず確認してください。

3 諸届、願出について

諸届、願出等の提出期限が決められているものは、必ず期限内に提出しなければなりません。

注意 Attention

提出の遅れたものについては、履修支援センターは一切受理しませんので、注意してください。

4 証明書等の発行について

欠席理由証明書、学外実習等出席証明書を除く証明書等の申込・発行については、「Printemps」を参照してください。

「Printemps」記載の証明書に係る窓口（申込み・受取り）は学生生活支援センターです。

大学院文学研究科



文学研究科概要

文学研究科 行事予定

日	曜	回	4 月	日	曜	回	5 月	日	曜	回	6 月
1	日			1	火	4		1	金	7	
2	月		入学式 (10:00)	2	水	4		2	土	7	
3	火		新入生オリエンテーション (9:30 ~ 12:30) 専攻別オリエンテーション (13:30 ~ 15:30) 文学研究科履修登録開始日	3	木		憲法記念日	3	日		
4	水		健康診断 ●長期履修申請書【新入生】締切 (15:30)	4	金		みどりの日	4	月	8	
5	木			5	土		こどもの日	5	火	9	
6	金		履修登録不可	6	日			6	水	9	
7	土		履修登録不可	7	月	4	●研究計画書提出締切 【後期課程 1 年生】 15:30	7	木	8	
8	日			8	火	5		8	金	8	
9	月	1	前期授業開始 履修登録再開 ●研究計画書提出締切 【後期課程 2・3 年生】 15:30 ●学位申請博士論文題目届提出締切 【前期末修了予定者】 15:30	9	水	5		9	土	8	
10	火	1		10	木	4		10	日		
11	水	1		11	金	4		11	月	9	
12	木	1		12	土	4		12	火	10	
13	金	1		13	日			13	水	10	
14	土	1		14	月	5		14	木	9	
15	日			15	火	6		15	金	9	
16	月	2		16	水	6		16	土	9	
17	火	2	履修登録締切 (17:00)	17	木	5		17	日		
18	水	2		18	金	5		18	月	10	
19	木	2		19	土	5		19	火	11	
20	金	2	●博士論文提出締切 【前期末修了予定者】 15:30	20	日			20	水	11	
21	土	2		21	月	6		21	木	10	
22	日			22	火	7		22	金	10	
23	月	3		23	水	7		23	土	10	
24	火	3		24	木	6		24	日		
25	水	3		25	金	6		25	月	11	
26	木	3		26	土	6		26	火	12	
27	金	3		27	日			27	水	12	
28	土	3		28	月	7		28	木	11	
29	日		昭和の日	29	火	8		29	金	11	後期研究生願・科目等履修願・ 聴講願締切 (15:30)
30	月		振替休日	30	水	8		30	土	11	
				31	木	7					

日	曜	回	7 月	日	曜	回	8 月	日	曜	回	9 月
1	日			1	水	16		1	土		
2	月	12		2	木	16		2	日		
3	火	13		3	金	16		3	月		
4	水	13		4	土	16		4	火		集中講義 ～7日（金）
5	木	12		5	日			5	水		
6	金	12		6	月	16		6	木		
7	土	12		7	火			7	金		
8	日			8	水		前期追試験願締切（15:30） ●前期末修了学位論文・特定課題発表会 実施期間	8	土		
9	月	13		9	木		↓	9	日		
10	火	14		10	金			10	月		
11	水	14		11	土		山の日 前期追試験時間割発表（10:00）	11	火		
12	木	13		12	日			12	水		
13	金	13		13	月		一斉休業日 ～15日（水）	13	木		
14	土	13		14	火			14	金		
15	日			15	水			15	土		
16	月		海の日	16	木			16	日		
17	火	15		17	金		追試験	17	月		敬老の日
18	水	15		18	土		追試験	18	火		
19	木	14		19	日			19	水		後期履修登録変更開始
20	金	14		20	月			20	木	1	後期授業開始
21	土	14		21	火			21	金	1	●修士論文・特定課題研究計画書 提出締切 【前期課程1年生】15:30
22	日			22	水			22	土	1	
23	月	14		23	木			23	日		秋分の日
24	火		通常授業なし	24	金			24	月	1	振替休日（授業日）
25	水		予備日	25	土			25	火	1	
26	木	15		26	日			26	水	1	
27	金	15		27	月			27	木	2	
28	土	15		28	火			28	金	2	履修登録変更締切（17:00）
29	日			29	水			29	土	2	
30	月	15	前期授業終了 ●修士論文・特定課題提出締切 【前期末修了予定者】（15:30）	30	木		前期末修了予定者発表（10:00） 前期末修了予定者成績単位修得通知表配付 ●後期在学期間延長申請書【後期課程】締切（15:30）	30	日		
31	火	16	前期試験 ～8/6（月）	31	金						

日	曜	回	10 月	日	曜	回	11 月	日	曜	回	12 月
1	月	2		1	木	6		1	土	10	
2	火	2		2	金	6		2	日		
3	水	2		3	土	6	文化の日（授業日）	3	月	10	クリスマスツリー点灯式
4	木	3		4	日			4	火	11	
5	金	3		5	月	6		5	水	11	
6	土	3		6	火	7		6	木	11	
7	日			7	水	7		7	金	11	
8	月		体育の日	8	木	7		8	土	11	
9	火	3		9	金	7		9	日		
10	水	3		10	土	7		10	月	11	
11	木	4		11	日			11	火	12	
12	金	4	●学位申請博士論文題目届または 博士論文提出延期報告書提出締切 【後期課程学位申請予定者】 15:30	12	月	7		12	水	12	
13	土	4		13	火	8		13	木	12	
14	日			14	水	8		14	金	12	
15	月	3	創立記念日（授業日）	15	木	8		15	土	12	
16	火	4		16	金	8		16	日		
17	水	4		17	土	8		17	月	12	
18	木		大学祭【全学休講日】 ～ 20 日（土）	18	日			18	火	13	
19	金			19	月	8		19	水	13	
20	土			20	火	9		20	木	13	大学クリスマス礼拝
21	日			21	水	9		21	金	13	
22	月	4		22	木	9		22	土	13	
23	火	5		23	金	9	勤労感謝の日（授業日）	23	日		天皇誕生日
24	水	5		24	土	9		24	月	13	振替休日（授業日） 冬期休暇前授業終了
25	木	5		25	日			25	火		クリスマス
26	金	5		26	月	9		26	水		
27	土	5		27	火	10		27	木		一斉休業日 ～ 1/6 日（日）
28	日			28	水	10		28	金		
29	月	5		29	木	10		29	土		
30	火	6		30	金	10		30	日		
31	水	6	●学位申請博士論文提出締切 【後期課程学位申請者】 15:30					31	月		

日	曜	回	1 月	日	曜	2 月	日	曜	3 月
1	火		元日	1	金	後期追試験願締切 (15:30)	1	金	
2	水			2	土		2	土	
3	木			3	日		3	日	
4	金			4	月	集中講義 ～7日(木)	4	月	修了予定者発表 (10:00)
5	土			5	火		5	火	
6	日			6	水		6	水	
7	月	14	冬期休暇後授業再開	7	木	後期追試験時間割発表 (10:00)	7	木	
8	火	14		8	金		8	金	
9	水	14		9	土		9	土	
10	木	14		10	日		10	日	
11	金	14		11	月	建国記念の日	11	月	
12	土	14		12	火	●学位論文・特定課題発表会実施期間	12	火	
13	日			13	水	追試験	13	水	
14	月		成人の日	14	木	追試験	14	木	
15	火	15	●修士論文・特定課題、通訳活動報告書提出締切【前期課程修了予定者】(15:30)	15	金		15	金	
16	水	15		16	土		16	土	
17	木	15		17	日		17	日	
18	金	15		18	月		18	月	学位記授与式
19	土	15		19	火		19	火	
20	日			20	水		20	水	
21	月	15	後期授業終了	21	木		21	木	春分の日
22	火		予備日	22	金	●2019年度研究生願、長期履修申請書(修業年限の変更を含む)、在学期間延長申請書【後期課程】締切 (15:30)	22	金	
23	水	16	後期試験 ～29日(火)	23	土		23	土	
24	木	16		24	日		24	日	
25	金	16	●研究経過報告書・研究主題論文概要提出締切【後期課程(学位を申請した者を除く)】(15:30)	25	月	●通訳活動報告書提出締切【前期課程 1年生】(15:30)	25	月	
26	土	16		26	火		26	火	
27	日			27	水		27	水	
28	月	16		28	木	2019年度前期科目等履修願・聴講願締切 (15:30)	28	木	
29	火	16					29	金	●研究報告書提出締切【研究生】(15:30)
30	水						30	土	
31	木						31	日	

教員組織

博士課程・後期課程

【国文学専攻】

教授 小 松 史生子 (N 3 - 405)
准教授 中 川 美 和 (N 3 - 410)
教授 藤 森 清 (N 3 - 409)
教授 藤 原 雅 憲 (N 3 - 304)
教授 龍 澤 彩 (N 3 - 403)

【英文学専攻】

教授 楚 輪 松 人 (N 3 - 505)
教授 高 野 祐 二 (N 3 - 513)
教授 田 村 章 (N 3 - 503)
教授 水 野 真木子 (N 3 - 502)
教授 森 田 順 也 (N 3 - 411)

【社会学専攻】

教授 朝 倉 美 江 (N 3 - 413)
教授 岩 崎 公弥子 (E 3 - 306)
教授 王 文 亮 (N 3 - 406)
教授 大 山 小 夜 (W 8 - 204)
教授 河 野 裕 康 (E 3 - 406)
教授 小 室 達 章 (E 3 - 401)

博士課程・前期課程

【国文学専攻】

准教授 内 山 潤 (N 3 - 305)
教授 桐 原 健 真 (N 3 - 404)
教授 小 松 史生子 (N 3 - 405)
准教授 中 川 美 和 (N 3 - 410)
教授 藤 森 清 (N 3 - 409)
教授 藤 原 雅 憲 (N 3 - 304)
教授 龍 澤 彩 (N 3 - 403)

【英文学専攻】

教授 楚 輪 松 人 (N 3 - 505)
教授 高 野 祐 二 (N 3 - 513)
教授 田 村 章 (N 3 - 503)
准教授 馬 場 今日子 (N 3 - 512)
教授 水 野 真木子 (N 3 - 502)
教授 森 田 順 也 (N 3 - 411)

【社会学専攻】

教授 朝 倉 美 江 (N 3 - 413)
教授 岩 崎 公弥子 (E 3 - 306)
教授 王 文 亮 (N 3 - 406)
教授 大 山 小 夜 (W 8 - 204)
教授 河 野 裕 康 (E 3 - 406)
教授 小 室 達 章 (E 3 - 401)

主な役職者

文学研究科長 森 田 順 也
国文学専攻主任 龍 澤 彩 (前期) ・ 小 松 史生子 (後期)
英文学専攻主任 田 村 章
社会学専攻主任 小 室 達 章

大学院実務助手 上 條 郷 子 (E 5 - 201 ・ E 3 - 220)

授業科目配当表

文学研究科・前期課程・国文学専攻

2010 年度以降の入学生に適用

科目区分	開講科目名	単位数	担当者	学期	曜日	時限	備考
国文学関連科目	国文学特論Ⅰ(1)	2	非開講				
	国文学特論Ⅰ(2)	2	非開講				
	国文学特論Ⅱ(1)	2	大井田晴彦	前期	月	3	
	国文学特論Ⅱ(2)	2	大井田晴彦	後期	月	3	
	国文学特論Ⅲ(1)	2	非開講				
	国文学特論Ⅲ(2)	2	非開講				
	国文学特論Ⅳ(1)	2	藤森 清	前期	火	4	
	国文学特論Ⅳ(2)	2	藤森 清	後期	火	4	
	国文学特論Ⅴ(比較文学Ⅰ)(1)	2	非開講				
	国文学特論Ⅴ(比較文学Ⅰ)(2)	2	非開講				
	国文学特論Ⅵ(比較文学Ⅱ)(1)	2	桐原 健真	前期	火	1	
	国文学特論Ⅵ(比較文学Ⅱ)(2)	2	桐原 健真	後期	火	1	
	国文学演習Ⅰ(1)	2	非開講				
	国文学演習Ⅰ(2)	2	非開講				
	国文学演習Ⅱ(1)	2	非開講				
	国文学演習Ⅱ(2)	2	非開講				
	国文学演習Ⅲ(1)	2	小松史生子	前期	水	3	
	国文学演習Ⅲ(2)	2	小松史生子	後期	水	3	
	国文学演習Ⅳ(1)	2	非開講				
	国文学演習Ⅳ(2)	2	非開講				
	国文学演習Ⅴ(比較文学Ⅰ)(1)	2	非開講				
	国文学演習Ⅴ(比較文学Ⅰ)(2)	2	非開講				
	国文学演習Ⅵ(比較文学Ⅱ)(1)	2	龍澤 彩	前期	月	2	
	国文学演習Ⅵ(比較文学Ⅱ)(2)	2	中根 千絵	後期	火	3	
	国文学特殊研究Ⅰ(1)	2	非開講				
	国文学特殊研究Ⅰ(2)	2	非開講				
	国文学特殊研究Ⅱ(1)	2	非開講				
	国文学特殊研究Ⅱ(2)	2	非開講				
	国文学特殊研究Ⅲ(1)	2	非開講				
	国文学特殊研究Ⅲ(2)	2	非開講				
	国文学特殊研究Ⅳ(1)	2	非開講				
	国文学特殊研究Ⅳ(2)	2	非開講				
	国文学特殊研究Ⅴ(比較文学)(1)	2	非開講				
	国文学特殊研究Ⅴ(比較文学)(2)	2	非開講				
	中国文学特論(1)	2	鵜飼 尚代	前期	金	2	
	中国文学特論(2)	2	鵜飼 尚代	後期	金	2	
	中国文学演習(1)	2	非開講				
	中国文学演習(2)	2	非開講				

科目 区分	開講科目名	単位数	担当者	学期	曜日	時限	備 考
国語学・日本語教育関連科目	国 語 学 特 論 I (1)	2	非開講				
	国 語 学 特 論 I (2)	2	非開講				
	国 語 学 特 論 II (1)	2	非開講				
	国 語 学 特 論 II (2)	2	非開講				
	国 語 学 演 習 I (1)	2	中川 美和	前期	火	2	
	国 語 学 演 習 I (2)	2	中川 美和	後期	火	2	
	国 語 学 演 習 II (1)	2	非開講				
	国 語 学 演 習 II (2)	2	非開講				
	国 語 学 特 殊 研 究 I (1)	2	非開講				隔年
	国 語 学 特 殊 研 究 I (2)	2	非開講				隔年
	国 語 学 特 殊 研 究 II (1)	2	釘貫 亨	前期	金	3	
	国 語 学 特 殊 研 究 II (2)	2	釘貫 亨	後期	金	4	
	日 本 語 教 育 特 論 I (1)	2	藤原 雅憲	前期	木	2	
	日 本 語 教 育 特 論 I (2)	2	藤原 雅憲	後期	木	2	
	日 本 語 教 育 特 論 II (1)	2	非開講				
	日 本 語 教 育 特 論 II (2)	2	非開講				
	日 本 語 教 育 特 論 III (1)	2	非開講				
	日 本 語 教 育 特 論 III (2)	2	非開講				
	日 本 語 教 育 演 習 I (1)	2	非開講				
	日 本 語 教 育 演 習 I (2)	2	非開講				
	日 本 語 教 育 演 習 II (1)	2	非開講				
	日 本 語 教 育 演 習 II (2)	2	非開講				
	日 本 語 教 育 演 習 III (1)	2	内山 潤	前期	木	3	
	日 本 語 教 育 演 習 III (2)	2	内山 潤	後期	木	3	
	日 本 語 教 育 特 殊 研 究 I (1)	2	非開講				
	日 本 語 教 育 特 殊 研 究 I (2)	2	非開講				
	日 本 語 教 育 特 殊 研 究 II (1)	2	非開講				
	日 本 語 教 育 特 殊 研 究 II (2)	2	非開講				

(注1) 前期課程においては、30単位以上修得する必要があります。

(注2) 他専攻及び他研究科の授業科目を履修し修得した単位は、10単位を超えない範囲で修了要件単位に算出することができます。

(注3) 修士論文または特定課題を2年次の終わりに提出する場合は、1年次において16単位以上修得する必要があります。

文学研究科・後期課程・国文学専攻

2010 年度以降の入学生に適用

科目区分	開講科目名	単位数	担当者	学期	曜日	時限	備考
古典文学研究	古典文学特殊講義(1)	4	非開講				
	古典文学特殊講義(2)	4	龍澤 彩	前期	月	2	
			中根 千絵	後期	火	3	
	古典文学特殊講義(3)	4	非開講				
	古典文学特殊講義(4)	4	非開講				
	古典文学演習	4	非開講				1年目
		4	非開講				2年目
		4	非開講				3年目
近現代文学研究	近現代文学特殊講義(1)	4	非開講				
	近現代文学特殊講義(2)	4	非開講				
	近現代文学特殊講義(3)	4	藤森 清	通年	火	4	
	近現代文学演習	4	小松史生子	通年	水	3	1年目
		4	非開講				2年目
		4	非開講				3年目
国語学・日本語教育研究	国語学特殊講義(1)	4	非開講				
	国語学特殊講義(2)	4	中川 美和	通年	火	2	
	日本語教育特殊講義(1)	4	非開講				
	日本語教育特殊講義(2)	4	非開講				
	国語学・日本語教育演習	4	非開講				1年目
		4	非開講				2年目
		4	藤原 雅憲	通年	木	2	3年目

(注1) 後期課程の演習科目については、原則同一教員の開講する演習を3年間履修して、計12単位修得する必要があります。

文学研究科・前期課程・英文学専攻

2010 年度以降の入学生に適用

科目 区分	開講科目名	単位数	担当者	学期	曜日	時限	備 考
英米文学関連科目	英 文 学 特 論 I (1)	2	楚輪 松人	前期	水	3	
	英 文 学 特 論 I (2)	2	楚輪 松人	後期	水	3	
	英 文 学 演 習 I (1)	2	非開講				
	英 文 学 演 習 I (2)	2	非開講				
	英 文 学 特 論 II (1)	2	田村 章	前期	金	4	
	英 文 学 特 論 II (2)	2	田村 章	後期	金	4	
	英 文 学 演 習 II (1)	2	非開講				
	英 文 学 演 習 II (2)	2	非開講				
	英 文 学 特 論 III (1)	2	非開講				
	英 文 学 特 論 III (2)	2	非開講				
	英 文 学 演 習 III (1)	2	非開講				
	英 文 学 演 習 III (2)	2	非開講				
	英 文 学 特 論 IV (1)	2	非開講				
	英 文 学 特 論 IV (2)	2	非開講				
	英 文 学 演 習 IV (1)	2	非開講				
	英 文 学 演 習 IV (2)	2	非開講				
	米 文 学 特 論 I (1)	2	非開講				
	米 文 学 特 論 I (2)	2	非開講				
	米 文 学 演 習 I (1)	2	朴 珣英	前期	金	2	
	米 文 学 演 習 I (2)	2	朴 珣英	後期	火	3	
	米 文 学 特 論 II (1)	2	非開講				
	米 文 学 特 論 II (2)	2	非開講				
	米 文 学 演 習 II (1)	2	非開講				
	米 文 学 演 習 II (2)	2	非開講				
英語学関連科目	英 語 学 特 論 I (1)	2	高野 祐二	前期	月	3	
	英 語 学 特 論 I (2)	2	高野 祐二	後期	月	3	
	英 語 学 演 習 I (1)	2	非開講				
	英 語 学 演 習 I (2)	2	非開講				
	英 語 学 特 論 II (1)	2	非開講				
	英 語 学 特 論 II (2)	2	非開講				
	英 語 学 演 習 II (1)	2	森田 順也	前期	月	4	
	英 語 学 演 習 II (2)	2	森田 順也	後期	月	4	
	英 語 学 特 論 III (1)	2	非開講				
	英 語 学 特 論 III (2)	2	非開講				
	英 語 学 演 習 III (1)	2	非開講				
	英 語 学 演 習 III (2)	2	非開講				

科目区分	開講科目名	単位数	担当者	学期	曜日	時限	備考
通訳関連科目	通 訳 特 論 I (1)	2	水野真木子 複数担当者	前期	木	5	オムニバス
	通 訳 特 論 I (2)	2	水野真木子	後期	木	5	
	通 訳 特 論 II (1)	2	非開講				
	通 訳 特 論 II (2)	2	非開講				
	通 訳 演 習 I (1)	2	水野真木子	前期	月	1	
	通 訳 演 習 I (2)	2	水野真木子	後期	月	1	
	通 訳 演 習 II (1)	2	水野真木子	前期	水	2	
	通 訳 演 習 II (2)	2	水野真木子	後期	水	2	
	通 訳 演 習 III (1)	2	非開講				
	通 訳 演 習 III (2)	2	非開講				
	通 訳 演 習 IV (1)	2	非開講				
	通 訳 演 習 IV (2)	2	非開講				
英語教育関連科目	英 語 教 育 特 論 I (1)	2	種村 俊介	前期	水	2	
	英 語 教 育 特 論 I (2)	2	種村 俊介	後期	水	2	
	英 語 教 育 演 習 I (1)	2	非開講				
	英 語 教 育 演 習 I (2)	2	非開講				
	英 語 教 育 特 論 II (1)	2	非開講				
	英 語 教 育 特 論 II (2)	2	非開講				
	英 語 教 育 演 習 II (1)	2	馬場今日子	前期	木	3	
	英 語 教 育 演 習 II (2)	2	馬場今日子	後期	木	3	
特殊専門関連科目	特 殊 講 義 I (1)	2	非開講				
	特 殊 講 義 I (2)	2	非開講				
	特 殊 講 義 II (1)	2	非開講				
	特 殊 講 義 II (2)	2	非開講				
	特 殊 講 義 III (1)	2	非開講				
	特 殊 講 義 III (2)	2	非開講				

(注1) 前期課程においては、30単位以上修得する必要があります。

(注2) 他専攻及び他研究科の授業科目を履修し修得した単位は、14単位を超えない範囲で修了要件単位に算出することができます。

(注3) 修士論文または特定課題を2年次の終わりに提出する場合は、1年次において16単位以上修得する必要があります。

文学研究科・後期課程・英文学専攻

2010 年度以降の入学生に適用

科目 区分	開講科目名	単位数	担当者	学期	曜日	時限	備考
英文学研究	英 文 学 特 殊 講 義 (1)	4	非開講				
	英 文 学 特 殊 講 義 (2)	4	非開講				
	英 文 学 特 殊 講 義 (3)	4	非開講				
	英 文 学 特 殊 講 義 (4)	4	非開講				
	英 文 学 特 殊 講 義 (5)	4	非開講				
	英 文 学 特 殊 講 義 (6)	4	非開講				
	英 文 学 演 習	12	4	非開講			1 年目
			4	非開講			2 年目
			4	非開講			3 年目
言語学研究	言 語 学 特 殊 講 義 (1)	4	非開講				
	言 語 学 特 殊 講 義 (2)	4	非開講				
	言 語 学 特 殊 講 義 (3)	4	森田 順也	通年	月	4	
	言 語 学 特 殊 講 義 (4)	4	非開講				
	言 語 学 演 習	12	4	非開講			1 年目
			4	非開講			2 年目
			4	非開講			3 年目

(注 1) 後期課程の演習科目については、原則同一教員の開講する演習を 3 年間履修して、計12単位修得する必要があります。

文学研究科・前期課程・社会学専攻

2010 年度以降の入学生に適用

科目区分	開講科目名	単位数	担当者	学期	曜日	時限	備考
基礎科目	社会学概論 (1)	2	岩崎公弥子 複数担当者	前期	月	1	必修 オムニバス
	社会学概論 (2)	2	時岡 新	後期	月	2	必修
国際社会論関連科目	国際社会論特殊講義Ⅰ (1)	2	河野 裕康	前期	木	3	
	国際社会論特殊講義Ⅰ (2)	2	河野 裕康	後期	木	3	
	国際社会論特殊講義Ⅱ (1)	2	非開講				
	国際社会論特殊講義Ⅱ (2)	2	非開講				
	国際社会論特殊講義Ⅲ (1)	2	非開講				
	国際社会論特殊講義Ⅲ (2)	2	非開講				
	国際社会論特殊講義Ⅳ (1)	2	非開講				
	国際社会論特殊講義Ⅳ (2)	2	非開講				
	国際社会論特殊講義Ⅴ (1)	2	非開講				
	国際社会論特殊講義Ⅴ (2)	2	非開講				
	国際社会論演習Ⅱ (1)	2	非開講				
	国際社会論演習Ⅱ (2)	2	非開講				
	国際社会論演習Ⅲ (1)	2	非開講				
	国際社会論演習Ⅲ (2)	2	非開講				
	国際社会論演習Ⅳ (1)	2	非開講				
	国際社会論演習Ⅳ (2)	2	非開講				
	国際社会論演習Ⅴ (1)	2	非開講				
	国際社会論演習Ⅴ (2)	2	非開講				
情報社会論関連科目	情報社会論特殊講義Ⅰ (1)	2	小室 達章	前期	月	3	
	情報社会論特殊講義Ⅰ (2)	2	小室 達章	後期	月	3	
	情報社会論特殊講義Ⅱ (1)	2	非開講				
	情報社会論特殊講義Ⅱ (2)	2	非開講				
	情報社会論特殊講義Ⅲ (1)	2	非開講				
	情報社会論特殊講義Ⅲ (2)	2	非開講				
	情報社会論特殊講義Ⅳ (1)	2	非開講				
	情報社会論特殊講義Ⅳ (2)	2	非開講				
	情報社会論特殊講義Ⅴ (1)	2	非開講				
	情報社会論特殊講義Ⅴ (2)	2	非開講				
	情報社会論演習Ⅰ (1)	2	岩崎公弥子	前期	水	2	
	情報社会論演習Ⅰ (2)	2	岩崎公弥子	後期	水	2	
	情報社会論演習Ⅱ (1)	2	非開講				
	情報社会論演習Ⅱ (2)	2	非開講				
	情報社会論演習Ⅲ (1)	2	非開講				
	情報社会論演習Ⅲ (2)	2	非開講				
	情報社会論演習Ⅳ (1)	2	非開講				
	情報社会論演習Ⅳ (2)	2	非開講				
	情報社会論演習Ⅴ (1)	2	非開講				
	情報社会論演習Ⅴ (2)	2	非開講				

科目 区分	開講科目名	単位数	担当者	学期	曜日	時限	備考
福祉社会論関連科目	福祉社会論特殊講義Ⅰ(1)	2	非開講				
	福祉社会論特殊講義Ⅰ(2)	2	非開講				
	福祉社会論特殊講義Ⅱ(1)	2	非開講				
	福祉社会論特殊講義Ⅱ(2)	2	非開講				
	福祉社会論特殊講義Ⅲ(1)	2	非開講				
	福祉社会論特殊講義Ⅲ(2)	2	非開講				
	福祉社会論特殊講義Ⅳ(1)	2	朝倉 美江	前期	木	1	
	福祉社会論特殊講義Ⅳ(2)	2	朝倉 美江	後期	木	1	
	福祉社会論特殊講義Ⅴ(1)	2	非開講				
	福祉社会論特殊講義Ⅴ(2)	2	非開講				
	福祉社会論演習Ⅰ(1)	2	非開講				
	福祉社会論演習Ⅰ(2)	2	非開講				
	福祉社会論演習Ⅱ(1)	2	王 文亮	前期	火	1	
	福祉社会論演習Ⅱ(2)	2	王 文亮	後期	火	1	
	福祉社会論演習Ⅲ(1)	2	非開講				
	福祉社会論演習Ⅲ(2)	2	非開講				
	福祉社会論演習Ⅳ(1)	2	非開講				
	福祉社会論演習Ⅳ(2)	2	非開講				
	福祉社会論演習Ⅴ(1)	2	非開講				
	福祉社会論演習Ⅴ(2)	2	非開講				
資格関連科目	社会調査演習 ＜多変量解析演習＞	2	時岡 新	後期	火	2	隔年開講
	国際社会論演習Ⅰ(1) ＜調査企画・設計に関する演習＞	2	大山 小夜	前期	金	2	隔年開講
	国際社会論演習Ⅰ(2) ＜質的調査演習＞	2	非開講				隔年開講

(注1) 前期課程においては、30単位以上修得する必要があります。

(注2) 他専攻及び他研究科の授業科目を履修し修得した単位は、14単位を超えない範囲で修了要件単位に算出することができます。

(注3) 修士論文または特定課題を2年次の終わりに提出する場合は、1年次において16単位以上修得する必要があります。

文学研究科・後期課程・社会学専攻

2010 年度以降の入学生に適用

科目区分	開講科目名	単位数		担当者	学期	曜日	時限	備考
現代社会論関連講義科目	現代社会論特殊講義(1)	4		非開講				
	現代社会論特殊講義(2)	4		非開講				
	現代社会論特殊講義(3)	4		朝倉 美江	通年	木	1	
	現代社会論特殊講義(4)	4		岩崎公弥子	通年	水	2	
	現代社会論特殊講義(5)	4		非開講				
	現代社会論特殊講義(6)	4		河野 裕康	通年	木	3	隔年開講
現代社会論関連演習科目	現代社会論演習(1)	12	4	非開講				1年目
			4	非開講				2年目
			4	非開講				3年目
	現代社会論演習(2)	12	4	小室 達章	通年	月	3	1年目
			4	非開講				2年目
			4	非開講				3年目
	現代社会論演習(3)	12	4	非開講				1年目
			4	非開講				2年目
			4	非開講				3年目
	現代社会論演習(4)	12	4	非開講				1年目
			4	非開講				2年目
			4	非開講				3年目
	現代社会論演習(5)	12	4	非開講				1年目
			4	非開講				2年目
			4	非開講				3年目
	現代社会論演習(6)	12	4	非開講				1年目
			4	王 文亮	通年	火	1	2年目
			4	非開講				3年目

(注1) 後期課程の演習科目については、原則同一教員の開講する演習を3年間履修して、計12単位修得する必要があります。

時間割表

2018年度 文学研究科 時間割表 【前期】 —2010年度以降の入学生に適用—

		国 文 学 専 攻				英 文 学 専 攻				社 会 学 専 攻			
		課程	授 業 科 目 名	担 当 者	通年	課程	授 業 科 目 名	担 当 者	通年	課程	授 業 科 目 名	担 当 者	通年
月	1限					前	通訳演習Ⅰ（１）	水野 真木子		前	社会学概論（１）	岩崎 公弥子 ^他 （オムニバス）	
	2限	前	国文学演習Ⅵ （比較文学Ⅱ）（１）	龍澤 彩									
	後	古典文学特殊講義（２）	龍澤 彩	*									
	3限	前	国文学特論Ⅱ（１）	大井田 晴彦		前	英語学特論Ⅰ（１）	高野 祐二		前	情報社会論特殊講義Ⅰ（１）	小室 達章	
4限					前	英語学演習Ⅱ（１）	森田 順也		後	現代社会論演習（２）	小室 達章	*	
					後	言語学特殊講義（３）	森田 順也	*					
火	1限	前	国文学特論Ⅵ （比較文学Ⅱ）（１）	桐原 健真						前	福祉社会論演習Ⅱ（１）	王 文亮	
	2限	前	国語学演習Ⅰ（１）	中川 美和						後	現代社会論演習（６）（２年目）	王 文亮	*
	後	国語学特殊講義（２）	中川 美和	*									
	3限												
4限	前	国文学特論Ⅳ（１）	藤森 清										
	後	近現代文学特殊講義（３）	藤森 清	*									
水	1限												
	2限					前	通訳演習Ⅱ（１）	水野 真木子		前	情報社会論演習Ⅰ（１）	岩崎 公弥子	
	3限	前	国文学演習Ⅲ（１）	小松 史生子		前	英語教育特論Ⅰ（１）	種村 俊介		後	現代社会論特殊講義（４）	岩崎 公弥子	*
	後	近現代文学演習（１年目）	小松 史生子	*	前	英文学特論Ⅰ（１）	楚輪 松人						
4限													
木	1限									前	福祉社会論特殊講義Ⅳ（１）	朝倉 美江	
	2限	前	日本語教育特論Ⅰ（１）	藤原 雅憲						後	現代社会論特殊講義（３）	朝倉 美江	*
	後	国語学・日本語教育演習（３年目）	藤原 雅憲	*									
	3限	前	日本語教育演習Ⅲ（１）	内山 潤		前	英語教育演習Ⅱ（１）	馬場 今日子		前	国際社会論特殊講義Ⅰ（１）	河野 裕康	
	4限									後	現代社会論特殊講義（６）	河野 裕康	*
5限					前	通訳特論Ⅰ（１）	水野 真木子 ^他 （オムニバス）						
金	1限												
	2限	前	中国文学特論（１）	鶴飼 尚代		前	米文学演習Ⅰ（１）	朴 珣英		前	国際社会論演習Ⅰ（１）	大山 小夜	
	3限	前	国語学特殊研究Ⅱ（１）	釘貫 亨									
	4限					前	英文学特論Ⅱ（１）	田村 章					

■後期課程の演習科目については、原則同一教員の開講する演習を３年間履修して、計１２単位修得する必要があります。

【集中講義】

前期課程

専攻	授業科目名	担当者	通年	実施日時

【日付不定】

授業科目名	担当者

後期課程

専攻	授業科目名	担当者	通年	実施日時

【時間割表の見方について】

- 課程の欄に「前」とあれば前期課程開講科目、「後」とあれば後期課程開講科目であることを示します。
- 通年の欄に＊印の付いた科目は、通年科目です。
- 上記日程は変更の可能性があります。K-PORTにてお知らせしますので各自確認してください。

2018年度 文学研究科 時間割表 【後期】 -2010年度以降の入学生に適用-

		国文学専攻				英文学専攻				社会学専攻			
		課程	授業科目名	担当者	通年	課程	授業科目名	担当者	通年	課程	授業科目名	担当者	通年
月	1限					前	通訳演習Ⅰ(2)	水野 真木子					
	2限									前	社会学概論(2)	時岡 新	
	3限	前	国文学特論Ⅱ(2)	大井田 晴彦		前	英語学特論Ⅰ(2)	高野 祐二		前 後	情報社会論特殊講義Ⅰ(2) 現代社会論演習(2)	小室 達章 小室 達章	*
	4限					前 後	英語学演習Ⅱ(2) 言語学特殊講義(3)	森田 順也 森田 順也	*				
火	1限	前	国文学特論Ⅵ (比較文学Ⅱ)(2)	桐原 健真						前 後	福祉社会論演習Ⅱ(2) 現代社会論演習(6)(2年目)	王 文亮 王 文亮	*
	2限	前 後	国語学演習Ⅰ(2) 国語学特殊講義(2)	中川 美和 中川 美和	*					前	社会調査演習〈多変量解析演習〉	時岡 新	
	3限	前 後	国文学演習Ⅵ (比較文学Ⅱ)(2) 古典文学特殊講義(2)	中根 千絵 中根 千絵	*	前	米文学演習Ⅰ(2)	朴 珣英					
	4限	前 後	国文学特論Ⅳ(2) 近現代文学特殊講義(3)	藤森 清 藤森 清	*								
水	1限												
	2限					前 前	通訳演習Ⅱ(2) 英語教育特論Ⅰ(2)	水野 真木子 種村 俊介		前 後	情報社会論演習Ⅰ(2) 現代社会論特殊講義(4)	岩崎 公弥子 岩崎 公弥子	*
	3限	前 後	国文学演習Ⅲ(2) 近現代文学演習(1年目)	小松 史生子 小松 史生子	*	前	英文学特論Ⅰ(2)	楚輪 松人					
	4限												
木	1限					前	英語学演習Ⅲ(2)	高野 祐二		前 後	福祉社会論特殊講義Ⅳ(2) 現代社会論特殊講義(3)	朝倉 美江 朝倉 美江	*
	2限	前 後	日本語教育特論Ⅰ(2) 国語学・日本語教育演習(3年目)	藤原 雅憲 藤原 雅憲	*								
	3限	前	日本語教育演習Ⅲ(2)	内山 潤		前	英語教育演習Ⅱ(2)	馬場 今日子		前 後	国際社会論特殊講義Ⅰ(2) 現代社会論特殊講義(6)	河野 裕康 河野 裕康	*
	4限												
	5限					前	通訳特論Ⅰ(2)	水野 真木子					
金	1限												
	2限	前	中国文学特論(2)	鶴岡 尚代									
	3限												
	4限	前	国語学特殊研究Ⅱ(2)	釘貫 亨		前	英文学特論Ⅱ(2)	田村 章					

■後期課程の演習科目については、原則同一教員の開講する演習を3年間履修して、計12単位修得する必要があります。

【集中講義】

前期課程

専攻	授業科目名	担当者	通年	実施日時

【日付不定】

授業科目名	担当者

後期課程

専攻	授業科目名	担当者	通年	実施日時

【時間割表の見方について】

○課程の欄に「前」とあれば前期課程開講科目、「後」とあれば後期課程開講科目であることを示します。

○通年の欄に*印の付いた科目は、通年科目です。

○上記日程は変更の可能性があります。K-PORTにてお知らせしますので各自確認してください。

博士課程・前期課程修了資格（学位規程による）

- (1) 前期課程に2年以上在学しなければならない。
- (2) 前期課程において30単位以上修得しなければならない。
- (3) 修士論文又は専攻が指定する特定の課題の研究成果（以下「特定課題」という。）を提出し、最終試験に合格しなければならない。

◆ 修士論文又は特定課題

- ① 修士論文又は特定課題を2年次の終わりに提出する者は、1年次において16単位以上を修得しなければならない。
- ② 修士論文又は特定課題を提出する者は、所定の日までに題目を選び専攻主任教授に届け出なければならない。
- ③ 修士論文は、主論文（正本・副本各1通）特定課題は、主要課題又はそれに関する研究成果報告書（正本・副本各1通）を所定の期日までに研究科長に提出しなければならない。必要によっては参考論文を添付することができる。

◆ 最終試験

- ① 試験は、論文又は特定課題の審査が終わった後に筆記又は口頭で行う。
 - ② 試験は、論文の内容を中心として学識と研究能力について審査する。
- (4) 学位取り消しについて
- 次に示す各号に該当した場合は、研究科委員会の議を経て授与した学位を取り消すものとする。
- ① 不正の方法により学位を受けた事実が判明したとき。
 - ② 学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があったとき。

博士課程・後期課程修了資格

（学位規程及び金城学院大学大学院文学研究科（課程博士）審査規程による）

- (1) 後期課程の第3学年に在学し、授業科目につき16単位以上を修得見込みで、所定の要件を満たし、かつ、必要な研究指導を受けた者。ただし、特に優れた研究業績を挙げた者については、第1学年在学以上とすることができる。
- (2) 授業科目につき16単位以上を修得し、所定の要件を満たし、引き続き後期課程の第3学年に在籍し、かつ、必要な研究指導を受けた者。ただし、後期課程入学後6年（在学中の休学期間を除く。）以内の者。
- (3) 博士論文を提出し、最終試験に合格しなければならない。

◆ 博士論文

- ① 博士論文を提出しようとする者は、研究科の定める指導要綱に従い単位を修得し、研究指導を受け、学位論文提出資格の認定を受けなければならない。
 - ② 博士論文を提出しようとする者は、所定の日までに学位申請（博士）論文題目届を提出しなければならない。
 - ③ 課程博士の学位を申請しようとする者は、次に掲げる書類を、研究科長に提出しなければならない。
- | | | | |
|---------------|-----------|---------|-----------|
| ・学位申請書 | …………… 1 部 | ・論文目録 | …………… 4 部 |
| ・学位申請論文 | …………… 4 部 | ・履歴書 | …………… 4 部 |
| ・申請論文の要旨 | …………… 4 部 | ・研究業績目録 | …………… 4 部 |
| ・参考論文（必要ある場合） | …………… 4 部 | | |

◆論文の審査及び学位

- ① 論文の審査は、論文を受理したときから、1年以内に終了するものとする。
 - ② 学位試験は、論文審査が終わった後に口頭で行う。
 - ③ 学位試験は、論文の内容及び研究者として自立して研究活動を行うに必要な学識と能力について審査する。
- (4) 学位取り消しについて
次に示す各号に該当した場合は、研究科委員会の議決を経て授与した学位を取り消すものとする。
- ① 不正の方法により学位を受けた事実が判明したとき。
 - ② 学位を授与された者が、その名誉を汚辱する行為があったとき。
- (5) 博士課程・後期課程単位取得満期退学について
博士課程・後期課程単位取得満期退学とは、各専攻の後期課程に3年以上在籍した学生が所定の単位を取得し、金城学院大学大学院文学研究科博士課程・後期課程指導要綱に定める条件を充足したものをいう。また、博士課程・後期課程単位取得満期退学者は、その認定の証明書の交付を受けることができる。

指導教員について

- (1) 前期課程
前期課程では、毎年度初めに指導教員及び副指導教員が指定されます。指導教員、副指導教員の指導のもとで研究及び修士論文の作成を進めてください。なお、修士論文研究計画書の提出後に、その内容に基づいて指導教員あるいは副指導教員が変更されることがあります。
- (2) 後期課程
後期課程では、毎年度初めに指導教員1名、副指導教員1名が指定されます。指導教員、副指導教員の指導のもとで研究及び博士論文の作成を進めてください。

資格取得について

■中学校及び高等学校教諭専修免許状取得について

- (1) 基礎資格
中学校教諭1種免許状、高等学校教諭1種免許状の所有資格を有する者で、修士の学位を有するか、大学院に1年以上在学し、30単位以上修得しなければなりません。
- (2) 免許状の種類と履修
前期課程で取得できる免許状及びその履修資格は、表1のとおりです。
- (3) 免許状取得に必要な単位数
高等学校教諭または中学校教諭の専修免許状を取得する者は、前期課程の各専攻で開設する授業科目のうち、教科に関する科目として表2（国文学専攻）、表3（英文学専攻）、表4（社会学専攻）に掲げる科目から24単位以上修得しなければなりません。
- (4) 教育職員免許状授与申請
免許状申請資格を有する者には、愛知県教育委員会へ申請することにより、教育職員免許状が授与されます。在学生については大学で一括して申請を行っています。（ただし、免許状申請資格を有する者で修士修了予定者に限定されます。）
申請のために必要な書類に関することは、修了年次の9月頃にK-PORT（学生ポータルサイト）をもって連絡します。

表 1 取得できる専修免許状と履修資格

専攻	取得できる免許状の種類	履修資格
国文学専攻	高等学校教諭専修免許状（国語） 中学校教諭専修免許状（国語）	高等学校教諭 1 種免許状（国語）取得済み 中学校教諭 1 種免許状（国語）取得済み
英文学専攻	高等学校教諭専修免許状（外国語「英語」） 中学校教諭専修免許状（外国語「英語」）	高等学校教諭 1 種免許状（外国語「英語」）取得済み 中学校教諭 1 種免許状（外国語「英語」）取得済み
社会学専攻	高等学校教諭専修免許状（公民） 中学校教諭専修免許状（社会）	高等学校教諭 1 種免許状（公民）取得済み 中学校教諭 1 種免許状（社会）取得済み

教科に関する科目

表 2 国文学専攻

(2010年度以降、2017年度以前の入学生に適用)

課程	授業科目名	単位
前期課程	国文学特論Ⅰ(1)	2
	国文学特論Ⅰ(2)	2
	国文学特論Ⅱ(1)	2
	国文学特論Ⅱ(2)	2
	国文学特論Ⅲ(1)	2
	国文学特論Ⅲ(2)	2
	国文学特論Ⅳ(1)	2
	国文学特論Ⅳ(2)	2
	国文学特論Ⅴ（比較文学Ⅰ）(1)	2
	国文学特論Ⅴ（比較文学Ⅰ）(2)	2
	国文学特論Ⅵ（比較文学Ⅱ）(1)	2
	国文学特論Ⅵ（比較文学Ⅱ）(2)	2
	国文学演習Ⅰ(1)	2
	国文学演習Ⅰ(2)	2
	国文学演習Ⅱ(1)	2
	国文学演習Ⅱ(2)	2
	国文学演習Ⅲ(1)	2
	国文学演習Ⅲ(2)	2
	国文学演習Ⅳ(1)	2
	国文学演習Ⅳ(2)	2
	国文学演習Ⅴ（比較文学Ⅰ）(1)	2
	国文学演習Ⅴ（比較文学Ⅰ）(2)	2
	国文学演習Ⅵ（比較文学Ⅱ）(1)	2
	国文学演習Ⅵ（比較文学Ⅱ）(2)	2
	国文学特殊研究Ⅰ(1)	2
	国文学特殊研究Ⅰ(2)	2
	国文学特殊研究Ⅱ(1)	2
	国文学特殊研究Ⅱ(2)	2
	国文学特殊研究Ⅲ(1)	2
	国文学特殊研究Ⅲ(2)	2
	国文学特殊研究Ⅳ(1)	2
	国文学特殊研究Ⅳ(2)	2
	国文学特殊研究Ⅴ（比較文学）(1)	2
	国文学特殊研究Ⅴ（比較文学）(2)	2

課程	授業科目名	単位
前期課程	国文学特論(1)	2
	国文学特論(2)	2
	国文学演習(1)	2
	国文学演習(2)	2
	国語学特論Ⅰ(1)	2
	国語学特論Ⅰ(2)	2
	国語学特論Ⅱ(1)	2
	国語学特論Ⅱ(2)	2
	国語学演習Ⅰ(1)	2
	国語学演習Ⅰ(2)	2
	国語学演習Ⅱ(1)	2
	国語学演習Ⅱ(2)	2
	国語学特殊研究Ⅰ(1)	2
	国語学特殊研究Ⅰ(2)	2
	国語学特殊研究Ⅱ(1)	2
	国語学特殊研究Ⅱ(2)	2
	日本語教育特論Ⅰ(1)	2
	日本語教育特論Ⅰ(2)	2
	日本語教育特論Ⅱ(1)	2
	日本語教育特論Ⅱ(2)	2
	日本語教育特論Ⅲ(1)	2
	日本語教育特論Ⅲ(2)	2
	日本語教育演習Ⅰ(1)	2
	日本語教育演習Ⅰ(2)	2
	日本語教育演習Ⅱ(1)	2
	日本語教育演習Ⅱ(2)	2
	日本語教育演習Ⅲ(1)	2
	日本語教育演習Ⅲ(2)	2
	日本語教育特殊研究Ⅰ(1)	2
	日本語教育特殊研究Ⅰ(2)	2
	日本語教育特殊研究Ⅱ(1)	2
	日本語教育特殊研究Ⅱ(2)	2

(2018年度以降の入学生に適用)

課程	授 業 科 目 名	単位
前期課程	国文学特論III(1)	2
	国文学特論III(2)	2
	国文学特論IV(1)	2
	国文学特論IV(2)	2
	国文学特論V (比較文学Ⅰ) (1)	2
	国文学特論V (比較文学Ⅰ) (2)	2
	国文学特論VI (比較文学Ⅱ) (1)	2
	国文学特論VI (比較文学Ⅱ) (2)	2
	国文学演習III(1)	2
	国文学演習III(2)	2
	国文学演習IV(1)	2
	国文学演習IV(2)	2
	国文学演習V (比較文学Ⅰ) (1)	2
	国文学演習V (比較文学Ⅰ) (2)	2
	国文学演習VI (比較文学Ⅱ) (1)	2
	国文学演習VI (比較文学Ⅱ) (2)	2
	国語学特論Ⅰ(1)	2
	国語学特論Ⅰ(2)	2
	国語学特論Ⅱ(1)	2
	国語学特論Ⅱ(2)	2
	国語学演習Ⅰ(1)	2
	国語学演習Ⅰ(2)	2
	国語学演習Ⅱ(1)	2
	国語学演習Ⅱ(2)	2
	日本語教育特論Ⅰ(1)	2
	日本語教育特論Ⅰ(2)	2
	日本語教育特論Ⅱ(1)	2
	日本語教育特論Ⅱ(2)	2
	日本語教育特論Ⅲ(1)	2
	日本語教育特論Ⅲ(2)	2
	日本語教育演習Ⅰ(1)	2
	日本語教育演習Ⅰ(2)	2
	日本語教育演習Ⅱ(1)	2
	日本語教育演習Ⅱ(2)	2
	日本語教育演習Ⅲ(1)	2
	日本語教育演習Ⅲ(2)	2

表3 英文学専攻

(2010年度以降、2017年度以前の入学生に適用)

課程	授 業 科 目 名	単位
前期課程	英米文学関連科目	英文学特論Ⅰ(1)
		英文学特論Ⅰ(2)
		英文学演習Ⅰ(1)
		英文学演習Ⅰ(2)
		英文学特論Ⅱ(1)
		英文学特論Ⅱ(2)
		英文学演習Ⅱ(1)
		英文学演習Ⅱ(2)
		英文学特論Ⅲ(1)
		英文学特論Ⅲ(2)
		英文学演習Ⅲ(1)
		英文学演習Ⅲ(2)
		英文学特論Ⅳ(1)
		英文学特論Ⅳ(2)
		英文学演習Ⅳ(1)
		英文学演習Ⅳ(2)
		米文学特論Ⅰ(1)
		米文学特論Ⅰ(2)
		米文学演習Ⅰ(1)
		米文学演習Ⅰ(2)
	英語学関連科目	英語学特論Ⅰ(1)
		英語学特論Ⅰ(2)
		英語学演習Ⅰ(1)
		英語学演習Ⅰ(2)
		英語学特論Ⅱ(1)
		英語学特論Ⅱ(2)
		英語学演習Ⅱ(1)
		英語学演習Ⅱ(2)
		英語学特論Ⅲ(1)
		英語学特論Ⅲ(2)
		英語学演習Ⅲ(1)
		英語学演習Ⅲ(2)

課程	授 業 科 目 名	単位
前期課程	通訳関連科目	通訳特論Ⅰ(1)
		通訳特論Ⅰ(2)
		通訳特論Ⅱ(1)
		通訳特論Ⅱ(2)
		通訳演習Ⅰ(1)
		通訳演習Ⅰ(2)
		通訳演習Ⅱ(1)
		通訳演習Ⅱ(2)
		通訳演習Ⅲ(1)
		通訳演習Ⅲ(2)
		通訳演習Ⅳ(1)
		通訳演習Ⅳ(2)
	英語教育関連科目	英語教育特論Ⅰ(1)
		英語教育特論Ⅰ(2)
		英語教育演習Ⅰ(1)
		英語教育演習Ⅰ(2)
		英語教育特論Ⅱ(1)
		英語教育特論Ⅱ(2)
		英語教育演習Ⅱ(1)
		英語教育演習Ⅱ(2)
	特殊専門関連科目	特殊講義Ⅰ(1)
		特殊講義Ⅰ(2)
		特殊講義Ⅱ(1)
		特殊講義Ⅱ(2)
		特殊講義Ⅲ(1)
		特殊講義Ⅲ(2)

(2018年度以降の入学生に適用)

課程	授 業 科 目 名	単位
前期課程	英米文学関連科目	英文学特論Ⅰ(1)
		英文学特論Ⅰ(2)
		英文学演習Ⅰ(1)
		英文学演習Ⅰ(2)
		英文学特論Ⅱ(1)
		英文学特論Ⅱ(2)
		英文学演習Ⅱ(1)
		英文学演習Ⅱ(2)
		米文学特論Ⅰ(1)
		米文学特論Ⅰ(2)
		米文学演習Ⅰ(1)
		米文学演習Ⅰ(2)
	英語学関連科目	英語学特論Ⅰ(1)
		英語学特論Ⅰ(2)
		英語学演習Ⅰ(1)
		英語学演習Ⅰ(2)
		英語学特論Ⅱ(1)
		英語学特論Ⅱ(2)
		英語学演習Ⅱ(1)
		英語学演習Ⅱ(2)
	通訳関連科目	通訳特論Ⅰ(1)
		通訳特論Ⅰ(2)
		通訳特論Ⅱ(1)
		通訳特論Ⅱ(2)
		通訳演習Ⅰ(1)
		通訳演習Ⅰ(2)
		通訳演習Ⅲ(1)
		通訳演習Ⅲ(2)
	英語教育関連科目	英語教育特論Ⅰ(1)
		英語教育特論Ⅰ(2)
		英語教育演習Ⅰ(1)
		英語教育演習Ⅰ(2)
		英語教育特論Ⅱ(1)
		英語教育特論Ⅱ(2)
		英語教育演習Ⅱ(1)
		英語教育演習Ⅱ(2)

表 4 社会学専攻

(2010年度以降の入学生に適用)

課程	授 業 科 目 名		単位
前期課程	基礎科目	社会学概論(1)	2
		社会学概論(2)	2
	国際社会論関連科目	国際社会論特殊講義Ⅰ(1)	2
		国際社会論特殊講義Ⅰ(2)	2
		国際社会論特殊講義Ⅱ(1)	2
		国際社会論特殊講義Ⅱ(2)	2
		国際社会論特殊講義Ⅲ(1)	2
		国際社会論特殊講義Ⅲ(2)	2
		国際社会論特殊講義Ⅳ(1)	2
		国際社会論特殊講義Ⅳ(2)	2
		国際社会論特殊講義Ⅴ(1)	2
		国際社会論特殊講義Ⅴ(2)	2
		国際社会論演習Ⅱ(1)	2
		国際社会論演習Ⅱ(2)	2
		国際社会論演習Ⅲ(1)	2
		国際社会論演習Ⅲ(2)	2
		国際社会論演習Ⅳ(1)	2
		国際社会論演習Ⅳ(2)	2
		国際社会論演習Ⅴ(1)	2
		国際社会論演習Ⅴ(2)	2
	情報社会論関連科目	情報社会論特殊講義Ⅰ(1)	2
		情報社会論特殊講義Ⅰ(2)	2
		情報社会論特殊講義Ⅱ(1)	2
		情報社会論特殊講義Ⅱ(2)	2
		情報社会論特殊講義Ⅲ(1)	2
		情報社会論特殊講義Ⅲ(2)	2
		情報社会論特殊講義Ⅳ(1)	2
		情報社会論特殊講義Ⅳ(2)	2
		情報社会論特殊講義Ⅴ(1)	2
		情報社会論特殊講義Ⅴ(2)	2
		情報社会論演習Ⅰ(1)	2
		情報社会論演習Ⅰ(2)	2
		情報社会論演習Ⅱ(1)	2
		情報社会論演習Ⅱ(2)	2
		情報社会論演習Ⅲ(1)	2
		情報社会論演習Ⅲ(2)	2
		情報社会論演習Ⅳ(1)	2
		情報社会論演習Ⅳ(2)	2
		情報社会論演習Ⅴ(1)	2
		情報社会論演習Ⅴ(2)	2

課程	授 業 科 目 名		単位
前期課程	福祉社会論関連科目	福祉社会論特殊講義Ⅰ(1)	2
		福祉社会論特殊講義Ⅰ(2)	2
		福祉社会論特殊講義Ⅱ(1)	2
		福祉社会論特殊講義Ⅱ(2)	2
		福祉社会論特殊講義Ⅲ(1)	2
		福祉社会論特殊講義Ⅲ(2)	2
		福祉社会論特殊講義Ⅳ(1)	2
		福祉社会論特殊講義Ⅳ(2)	2
		福祉社会論特殊講義Ⅴ(1)	2
		福祉社会論特殊講義Ⅴ(2)	2
		福祉社会論演習Ⅰ(1)	2
		福祉社会論演習Ⅰ(2)	2
		福祉社会論演習Ⅱ(1)	2
		福祉社会論演習Ⅱ(2)	2
		福祉社会論演習Ⅲ(1)	2
		福祉社会論演習Ⅲ(2)	2
		福祉社会論演習Ⅳ(1)	2
		福祉社会論演習Ⅳ(2)	2
		福祉社会論演習Ⅴ(1)	2
		福祉社会論演習Ⅴ(2)	2
	資格関連科目	社会調査演習	2
		国際社会論演習Ⅰ(1)	2
		国際社会論演習Ⅰ(2)	2

■「専門社会調査士」について

1. 「専門社会調査士」とは

社会調査資格には、「社会調査士」と「専門社会調査士」の2種類があります。アンケートやインタビューなどを用いて、世論、市場動向、社会事象等をとらえる能力があることを認定する制度で、取得者は「社会を読み解く専門家」と言われています。例えば、以下の分野に関心のある方におすすめです。

- ・ マスコミで世論調査やドキュメンタリー制作などに携わりたい。
- ・ 企業の商品開発部門などで市場調査を手がけたい。
- ・ 自治体に勤めて、住民のニーズを把握できるようになりたい。

専門社会調査士の資格を得るためには、原則、次の4項目を全て満たさねばなりません。

(1) 社会調査士の資格を有すること。

※有していない場合でも、専門社会調査士資格を取得する際、同時に申請することも可能です。

(2) 本学で、標準カリキュラムH～Jに対応した授業科目単位を取得していること。

(3) 社会調査結果を用いた研究論文（修士論文を含む）を執筆すること。

(4) 修士課程を修了していること。

※すでに修士課程を終えた場合でも専門社会調査士資格は申請できます。

なお、本学で社会調査士は、「国際情報学部国際情報学科」「人間科学部多元心理学科」が取得を支援しています。

2. 資格認定機関

「一般社団法人 社会調査協会」です。その前身である「社会調査士資格認定機構」は、2003年、日本社会学会、日本行動計量学会、日本教育社会学会を母胎として発足しました。

3. 資格取得に関する科目

原則として、社会調査士の資格を取得した上で、以下のH～Jに対応する、本学の開設授業科目の単位を取得する必要があります。

資格認定機関が定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目及び単位数	
区 分	単 位	科目説明	奇数年度	偶数年度
H	2	調査企画・設計	国際社会論特殊講義IV(1) 2単位	国際社会論演習Ⅰ(1) 2単位
I	2	多変量解析		社会調査演習 2単位
J	2	質的調査	国際社会論特殊講義IV(2) 2単位	国際社会論演習Ⅰ(2) 2単位

※上記科目はいずれも前期課程が開設する科目です。

※後期課程生は、通常授業科目での履修ではなく、科目等履修生制度を利用した単位修得となります。詳細は金城学院大学ホームページもしくは履修支援センターまでお問い合わせください。

※国際社会論演習Ⅰ(2)について 2018年度は非開講です。

4. 資格取得に要する費用

審査・認定手数料

社会調査士の資格を→取得している：32,400円（税込）

→取得していない：43,200円（税込）

※振込用紙のコピーを申請書裏面に貼付し、本学の所定の窓口に出します。

<参考> 一般社団法人 社会調査協会 公式サイト <http://jasr.or.jp/index.html>

文学研究科履修規程

(1997年10月9日制定)

最終改正 2016年9月15日

(目的)

第1条 この規程は、金城学院大学大学院学則（以下、「学則」という。）第14条に基づき、金城学院大学大学院文学研究科（以下「本研究科」という。）の授業科目等の履修方法に関する規定を定める。

(授業科目及び単位数)

第2条 本研究科各専攻の授業科目及び単位数は、金城学院大学大学院学則の別表のとおりとする。

(前期課程の指導教員)

第3条 学生は、指定された指導教員及び副指導教員のもとで研究し、修士論文又は専攻が指定する特定の課題の研究成果（以下「特定課題」という。）の作成をするものとする。

2 前項の指導教員及び副指導教員は、毎年度初めに学生の研究分野に応じて、各専攻の推薦を経て、研究科委員会が承認する。なお、修士論文研究計画書又は特定課題研究計画書の受理後、その内容に基づく各専攻の協議及び研究科委員会の承認を経て、変更することがある。

3 前項にかかわらず、学生の親族で2親等以内の者を指導教員及び副指導教員とすることはできない。

(前期課程の履修方法)

第4条 学生は、2年以上在学し、30単位以上を修得し、修士論文又は特定課題を提出するものとする。

2 2年次の終わりに修士論文又は特定課題を提出しようとする者は、1年次において16単位以上を修得しなければならない。

3 長期履修学生は、修士論文又は特定課題を提出しようとする前年度までに16単位以上を修得しなければならない。

4 学則第15条第1項～第3項に基づき修得した単位は、学則第15条第4項の規定により修得した単位とあわせて、国文学専攻においては10単位、英文学専攻及び社会学専攻においては14単位を超えない範囲で修了に要する単位に算入することができる。

(前期課程の研究計画等)

第5条 1年次学生は、所定の期日までに、修士論文研究計画書又は特定課題研究計画書を学生支援部履修支援センターに提出するものとする。

(後期課程の指導教員)

第6条 学生は、指定された指導教員及び副指導教員のもとで、研究及び博士論文等の作成をするものとする。

2 前項の指導教員及び副指導教員は、毎年度初めに学生の研究分野に応じて、各専攻の推薦を経て、研究科委員会が承認する。

3 前項にかかわらず、学生の親族で2親等以内の者を指導教員及び副指導教員とすることはできない。

(後期課程の履修方法)

第7条 学生は、3年以上在学し、16単位以上を修得し、博士論文を提出するものとする。

2 上記修得単位（16単位）のうち12単位は、原則として同一教員の開講する演習を3年間履修し、修得するものとする。

(後期課程の研究計画等)

第8条 学生は、毎年度所定の期日に所定の用紙に記した研究計画書を、指導教員の指導を受けて学生支援部履修支援センターに提出するものとする。

2 学生は、毎年度所定の期日までに、所定の用紙に記した研究経過報告書を指導教員の承認を得て、学生支援部履修支援センターに提出するものとする。

3 学生は、毎年度所定の期日までに、研究主題に関する論文を指導教員に提出するものとする。また、所定の用紙に記したその概要を指導教員の承認を得て、学生支援部履修支援センターに提出するものとする。

4 長期履修学生は、前項に定める論文及び概要を、指導教員が指定する年度の所定の期日までに提出するものとする。

5 学生は、1年に1回以上、もしくは在学期間内に3回以上の研究発表を行うものとする。

(各種資格に係る授業科目の履修方法)

第9条 各種資格取得のために必要な授業科目及び単位の修得方法は、当該取得資格の課程表において示すところによる。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、本研究科委員会の決議に基づき、これを行う。

附 則 (一部省略)

附 則 (2016年9月15日文学研究科委員会)

この規程は、2017年4月1日から施行する。

大学院人間生活学研究科



人間生活学研究科概要

人間生活学研究科 行事予定

日	曜	回	4 月	日	曜	回	5 月	日	曜	回	6 月
3/31	土		在学生オリエンテーション (15:00) 履修登録開始【在学生】	1	火	4		1	金	7	博士論文・修士論文予備審査～14日(木) 【前期末修了予定者】
1	日			2	水	4		2	土	7	
2	月		入学式 (13:30)	3	木		憲法記念日	3	日		
3	火		新入生オリエンテーション (9:10～11:30) 専攻別オリエンテーション (13:30～16:00) 指導教員決定【新入生】 履修登録開始【新入生】	4	金		みどりの日	4	月	8	
4	水		長期履修申請書締切 (15:30)【新入生】 健康診断	5	土		こどもの日	5	火	9	
5	木			6	日			6	水	9	
6	金		履修登録不可	7	月	4		7	木	8	
7	土		↓	8	火	5		8	金	8	
8	日			9	水	5		9	土	8	
9	月	1	前期授業開始 履修登録再開 研究計画書配付【後期課程1～3年生(前期末修了 予定者を除く)】 博士論文執筆計画書配付～24日(月)【前期末修了予定者】	10	木	4		10	日		
10	火	1		11	金	4	博士論文予備審査願・論文題目届配付～18日(金) 修士論文予備審査願配付～18日(金) 【前期末修了予定者】	11	月	9	
11	水	1		12	土	4		12	火	10	
12	木	1		13	日			13	水	10	
13	金	1		14	月	5		14	木	9	
14	土	1		15	火	6		15	金	9	
15	日			16	水	6		16	土	9	
16	月	2		17	木	5		17	日		
17	火	2	履修登録締切 (17:00)	18	金	5	博士論文予備審査願・論文題目届または博士論文提出 延期報告書提出締切 (15:30) 修士論文予備審査願・論文題目変更届提出締切 (15:30) 【前期末修了予定者】	18	月	11	研究計画書配付～22日(金)【前 期課程1年生】
18	水	2		19	土	5		19	火	11	
19	木	2		20	日			20	水	11	
20	金	2		21	月	6		21	木	10	
21	土	2		22	火	7		22	金	10	
22	日			23	水	7		23	土	10	
23	月	3	博士論文執筆計画書提出締切 (15:30) 【前期末修了予定者】	24	木	6		24	日		
24	火	3		25	金	6	研究計画書提出締切 (15:30)【後期課程 1～3年生(前期末修了予定者を除く)】	25	月	11	
25	水	3		26	土	6		26	火	12	
26	木	3		27	日			27	水	12	
27	金	3		28	月	7		28	木	11	
28	土	3		29	火	8		29	金	11	後期研究生願・科目等履修願・聴 講願締切 (15:30)
29	日		昭和の日	30	水	8		30	土	11	
30	月		振替休日	31	木	7					

日	曜	回	7 月	日	曜	回	8 月	日	曜	回	9 月
1	日			1	水	16		1	土		
2	月	12		2	木	16		2	日		
3	火	13		3	金	16		3	月		
4	水	13		4	土	16		4	火		集中講義
5	木	12		5	日			5	水		
6	金	12	博士論文・修士論文・論文題目変更届提出締切（15:30）【前期末修了予定者】	6	月	16	↓	6	木		
7	土	12		7	火		論文発表会 学位審査【後期課程・前期末修了予定者】	7	金		↓
8	日			8	水		前期追試験願締切（15:30）	8	土		
9	月	13	博士論文・修士論文審査～23日（月） 【前期末修了予定者】	9	木			9	日		
10	火	14		10	金			10	月		
11	水	14		11	土		山の日 前期追試験時間割発表（10:00）	11	火		
12	木	13		12	日			12	水		
13	金	13		13	月		一斉休業日	13	木		
14	土	13		14	火			14	金		
15	日			15	水		↓	15	土		
16	月		海の日	16	木			16	日		
17	火	15		17	金		追試験	17	月		敬老の日
18	水	15		18	土		↓	18	火		
19	木	14		19	日			19	水		院生集会・後期在学生オリエンテーション(15:30) 学位記授与【前期末修了予定者】 後期履修登録変更開始
20	金	14		20	月			20	木	1	後期授業開始
21	土	14		21	火			21	金	1	博士論文執筆計画書提出締切（15:30） 【後期課程3年生（学位申請予定者）】 修士論文研究計画書提出締切（15:30）【前期課程1年生】
22	日			22	水			22	土	1	
23	月	14		23	木			23	日		秋分の日
24	火		通常授業なし	24	金			24	月	1	授業日（振替休日）
25	水		予備日	25	土			25	火	1	
26	木	15		26	日			26	水	1	
27	金	15		27	月			27	木	2	
28	土	15		28	火			28	金	2	履修登録変更締切（17:00）
29	日			29	水			29	土	2	
30	月	15	前期授業終了	30	木		前期末修了予定者発表（10:00） 成績単位修得通知表配付【前期末修了予定者】 後期在学期間延長申請書【後期課程】締切（15:30）	30	日		
31	火	16	前期試験	31	金						

日	曜	回	10 月	日	曜	回	11 月	日	曜	回	12 月
1	月	2		1	木	6	博士論文・修士論文予備審査～21日(火)	1	土	10	
2	火	2		2	金	6		2	日		
3	水	2	博士論文予備審査願・論文題目届配付～12日(金) 修士論文予備審査願配付～12日(金)	3	土	6	授業日(文化の日)	3	月	10	クリスマスツリー点灯式
4	木	3		4	日			4	火	11	
5	金	3		5	月	6		5	水	11	
6	土	3		6	火	7		6	木	11	
7	日			7	水	7		7	金	11	
8	月		体育の日	8	木	7		8	土	11	
9	火	3		9	金	7		9	日		
10	水	3		10	土	7		10	月	11	
11	木	4	博士論文予備審査願・論文題目届または博士論文提出延期報告書提出締切(15:30) 修士論文予備審査願・論文題目変更届提出締切(15:30)	11	日			11	火	12	
12	金	4		12	月	7		12	水	12	
13	土	4		13	火	8		13	木	12	
14	日			14	水	8		14	金	12	
15	月	3	授業日(創立記念日)	15	木	8		15	土	12	
16	火	4		16	金	8		16	日		
17	水	4		17	土	8		17	月	12	
18	木		大学祭(全学休講日)	18	日			18	火	13	
19	金			19	月	8		19	水	13	
20	土		博士論文・修士論文中間発表会	20	火	9		20	木	13	大学クリスマス礼拝
21	日			21	水	9		21	金	13	
22	月	4		22	木	9		22	土	13	
23	火	5		23	金	9	授業日(勤労感謝の日)	23	日		天皇誕生日
24	水	5		24	土	9		24	月	13	授業日(振替休日) 冬期休暇前授業終了
25	木	5		25	日			25	火		クリスマス
26	金	5		26	月	9		26	水		
27	土	5		27	火	10		27	木		一斉休業日
28	日			28	水	10		28	金		
29	月	5		29	木	10		29	土		
30	火	6		30	金	10		30	日		
31	水	6						31	月		

日	曜	回	1 月	日	曜	2 月	日	曜	3 月
1	火		元日	1	金	後期追試験願締切 (15:30)	1	金	
2	水			2	土		2	土	
3	木			3	日		3	日	
4	金			4	月	集中講義	4	月	修了予定者発表 (10:00) 修士論文発表会
5	土			5	火		5	火	
6	日		▼	6	水		6	水	
7	月	14	冬期休暇後授業再開	7	木	後期追試験時間割発表 (10:00)	7	木	
8	火	14		8	金		8	金	
9	水	14		9	土		9	土	
10	木	14		10	日		10	日	
11	金	14		11	月	建国記念の日	11	月	
12	土	14		12	火		12	火	
13	日			13	水	追試験 博士論文発表会	13	水	
14	月		成人の日	14	木	学位審査【後期課程】	14	木	
15	火	15	博士論文・修士論文・論文題目変更届提出締切 (15:30)	15	金		15	金	
16	水	15	博士論文・修士論文審査～2/12(火)	16	土		16	土	
17	木	15		17	日		17	日	
18	金	15		18	月		18	月	学位記授与式
19	土	15		19	火		19	火	
20	日			20	水		20	水	
21	月	15	後期授業終了 研究経過報告書提出締切 (15:30)【後期課程1～3年生】	21	木		21	木	春分の日
22	火		予備日	22	金	2019年度研究生願、長期履修申請書(修業年限の変更を含む)、在学期間延長申請書【後期課程】締切 (15:30)	22	金	
23	水	16	後期試験	23	土		23	土	
24	木	16		24	日		24	日	
25	金	16		25	月		25	月	
26	土	16		26	火		26	火	
27	日			27	水		27	水	
28	月	16		28	木	2019年度前期科目等履修願・聴講願締切 (15:30)	28	木	
29	火	16	▼				29	金	
30	水						30	土	
31	木						31	日	

教員組織

博士課程・後期課程

【人間生活学専攻】

教授 青 山 喜久子 (W 3 - 503)
教授 上 野 顕 子 (W 3 - 528)
教授 奥 村 隆 平
教授 川 瀬 正 裕 (W 5 - 301)
教授 篠 原 康 郎 (W 1 - 424)

教授 中 森 千佳子 (W 3 - 529)
教授 日 野 知 証 (W 1 - 422)
教授 丸 山 智 美 (W 3 - 502)
教授 宗 方 比佐子 (W 8 - 203)
教授 渡 辺 恭 子 (W 5 - 208)

博士課程・前期課程

【消費者科学専攻】

教授 青 山 喜久子 (W 3 - 503)
教授 網 岡 克 雄 (W 1 - 215)
教授 上 野 顕 子 (W 3 - 528)
教授 奥 村 隆 平
准教授 加 藤 悠 介 (W 3 - 507)
准教授 岸 和 廣 (W 3 - 508)
教授 北 森 一 哉 (W 3 - 504)
教授 古 寺 浩 (W 3 - 513)
教授 篠 原 康 郎 (W 1 - 424)
教授 永 津 明 人 (W 1 - 412)
教授 中 森 千佳子 (W 3 - 529)
教授 日 野 知 証 (W 1 - 422)
教授 平 林 由 果 (W 3 - 533)
教授 丸 山 智 美 (W 3 - 502)
教授 宮 坂 靖 子 (W 3 - 512)
准教授 吉 川 昌 江 (W 1 - 222)
准教授 吉 田 耕 治 (W 1 - 415)

【人間発達学専攻】

教授 今 村 友木子 (W 5 - 305)
准教授 加 藤 大 樹 (W 5 - 304)
教授 川 瀬 正 裕 (W 5 - 301)
教授 北 折 充 隆 (W 8 - 210)
教授 定 松 美 幸 (W 5 - 303)
教授 坪 井 貴 子 (W 5 - 313)
教授 中 野 修 身 (W 8 - 108)
教授 仁 里 文 美 (W 5 - 308)
准教授 治 田 哲 之 (W 5 - 202)
准教授 二 村 彩 (W 5 - 302)
教授 増 田 公 男 (W 5 - 210)
教授 宗 方 比佐子 (W 8 - 203)
教授 渡 辺 恭 子 (W 5 - 208)

主な役職者

人間生活学研究科長	川 瀬 正 裕
人間生活学専攻主任	中 森 千佳子
消費者科学専攻主任	加 藤 悠 介
人間発達学専攻主任	治 田 哲 之
教 務 担 当	治 田 哲 之
学 生 担 当	岸 和 廣

大 学 院 実 務 助 手 上 條 郷 子 (E 5 - 201・E 3 - 220)

授業科目配当表

人間生活学研究科・前期課程・消費者科学専攻

2010 年度以降の入学生に適用

授業科目		単位数	担当者	学期	曜日	時限	備考
共通科目	人間生活学研究法Ⅰ	2	鋤柄 増根	前期	火	2	
	人間生活学研究法Ⅱ	2	非開講				学部「情報リテラシー」と合併
	人間生活学研究法Ⅲ	2	非開講				
	消費生活特論Ⅰ	2	鬼頭由美子	前期	水	4	
	消費生活特論Ⅱ	2	上野 顕子	後期	木	4	
	消費生活特論Ⅲ	2	非開講				
	消費生活特論Ⅳ	2	非開講				
	消費生活特論Ⅴ	2	古寺 浩	前期	月	2	
	消費生活特論Ⅵ	2	非開講				
	消費生活特論Ⅶ	2	中森千佳子	前期	月	4	
	消費生活特論Ⅷ	2	非開講				
	消費生活特論Ⅸ	2	吉田 耕治	後期	水	1	
	消費生活特論Ⅹ	2	非開講				
	消費生活特論Ⅺ	2	非開講				
	消費生活特論Ⅻ	2	日野 知証	後期	火	1	
	消費生活特論Ⅼ	2	非開講				
	消費生活特論Ⅽ	2	篠原 康郎	前期	月	3	
	消費生活特論Ⅾ	2	非開講				
	消費生活特論Ⅿ	2	非開講				
	消費生活特論研究演習Ⅰ (外書講読を含む)	2	奥村 隆平	通年	木	2	
	消費生活特論研究演習Ⅱ (外書講読を含む)	2	中森千佳子	通年	火	3	
	消費生活特論研究演習Ⅲ (外書講読を含む)	2	上野 顕子	前期	木	2	
			古寺 浩	後期	金	2	
	消費生活特論研究演習Ⅳ (外書講読を含む)	2	非開講				
	生活の質特論Ⅰ	2	青山喜久子	前期	水	2	
	生活の質特論Ⅱ	2	非開講				
	生活の質特論Ⅲ	2	非開講				
	生活の質特論Ⅳ	2	平林 由果	後期	火	2	
	生活の質特論Ⅴ	2	非開講				
	生活の質特論Ⅵ	2	非開講				
	生活の質特論Ⅶ	2	加藤 悠介	後期	火	4	
	生活の質特論Ⅷ	2	非開講				
	生活の質特論Ⅸ	2	非開講				
	生活の質特論Ⅹ	2	非開講				
	生活の質特論Ⅺ	2	非開講				
	生活の質特論Ⅻ	2	非開講				
	生活の質特論Ⅼ	2	丸山 智美	前期	土	2	
	生活の質特論Ⅽ	2	非開講				
	生活の質特論Ⅾ	2	北森 一哉	前期	水	3	
	生活の質特論Ⅿ	2	非開講				

授業科目	単位数	担当者	学期	曜日	時限	備考
生活の質特論研究演習Ⅰ (外書講読を含む)	2	青山喜久子	通年	金	1	
生活の質特論研究演習Ⅱ (外書講読を含む)	2	平林 由果	通年	水	3	
生活の質特論研究演習Ⅲ (外書講読を含む)	2	北森 一哉	通年	前期 月	1	
				後期 月	2	
生活の質特論研究演習Ⅳ (外書講読を含む)	2	丸山 智美	通年	前期 金	5	
				後期 木	5	
特 別 研 究	10	青山喜久子	通年			必修
		網岡 克雄				
		上野 顕子				
		奥村 隆平				
		加藤 悠介				
		岸 和廣				
		北森 一哉				
		古寺 浩				
		篠原 康郎				
		中森千佳子				
		永津 明人				
		日野 知証				
		平林 由果				
		丸山 智美				
		宮坂 靖子				
		吉川 昌江				

修得単位について（履修規程第4条による）

（注1）修了に必要な最低修得単位数は30単位です。

（注2）専攻する分野の「研究演習」から2単位修得する必要があります。

（注3）「研究演習」および「特別研究」を除いた科目から18単位以上修得する必要があります。

ただし、各専攻で開設する科目から10単位以上の修得が必要です。

人間生活学研究科・前期課程・人間発達学専攻

2017 年度以前の入学生に適用

科目 区分	授業科目	単位数	担当者	開講 基準 年次	学期	曜日	時限	備考	資格
									臨床心理士
共通科目	人間生活学研究法Ⅰ	2	鋤柄 増根	1	前期	火	2		A 群
	人間生活学研究法Ⅱ	2	非開講	1				学部「情報リテラシー」と合併	
	人間生活学研究法Ⅲ	2	非開講	1					
発達学分野	発達環境学特論Ⅰ	2	宗方比佐子	1	前期	木	3	「発達環境学特論Ⅰ」と 「発達環境学特論Ⅱ」は 対で隔年に開講	C 群
	発達環境学特論Ⅱ	2	非開講	1					
	発達環境学特論Ⅲ	2	非開講	1					
	発達環境学特論Ⅳ	2	非開講	1					
	発達環境学特論Ⅴ	2	非開講	1					
	発達環境学特論Ⅵ	2	非開講	1					
	発達環境学特論Ⅶ	2	非開講	1					
	発達環境学特論Ⅷ	2	非開講	1					
	発達環境学特論Ⅸ	2	非開講	1					
	発達環境学特論Ⅹ	2	水野 里恵	1	後期	金	1		C 群
	発達環境学特論Ⅺ	2	非開講	1					
	発達環境学特論Ⅻ	2	非開講	1				文学研究科社会学専攻 ・前期課程「福祉社会 論演習Ⅰ(1)」と合併	
	発達環境学研究演習Ⅰ (外書講読を含む)	1	非開講	1					
	発達環境学研究演習Ⅱ (外書講読を含む)	1	非開講	1					
	発達教育学特論Ⅰ	2	非開講	1				「発達教育学特論Ⅹ」と 対で隔年に開講	B 群
	発達教育学特論Ⅱ	2	笠井 尚	1	前期	月	1		
	発達教育学特論Ⅲ	2	坪井 貴子	1	前期	月	4		
	発達教育学特論Ⅳ	2	渡辺 恭子	1	前期	火	3		B 群
	発達教育学特論Ⅴ	2	非開講	1					B 群
	発達教育学特論Ⅵ	2	清瀧 裕子	1	前期	集中講義		「発達教育学特論Ⅵ」と 「発達教育学特論Ⅶ」は 対で隔年に開講	E 群
	発達教育学特論Ⅶ	2	非開講	1					
	発達教育学特論Ⅷ	2	非開講	1					
	発達教育学特論Ⅸ	2	非開講	1					D 群
	発達教育学特論Ⅹ	2	吉岡 恒生	1	前期	集中講義		「発達教育学特論Ⅰ」と 対で隔年に開講	D 群
	発達教育学特論Ⅺ	2	北折 充隆	1	前期	木	4		
	発達教育学特論Ⅻ	2	非開講	1					
	発達教育学研究演習Ⅰ (外書講読を含む)	2	増田 公男	1	通年	木	3	「発達教育学研究演習Ⅰ (外書講読を含む)」と「発 達教育学研究演習Ⅱ (外 書講読を含む)」は対で 隔年に開講	
	発達教育学研究演習Ⅱ (外書講読を含む)	2	非開講	1					

科目 区分	授業科目	単位数	担当者	開講 基準 年次	学期	曜日	時限	備考	資格
									臨床心理士
臨床心理学分野	臨床心理学特論Ⅰ	2	仁里 文美	1	前期	月	3		必修
	臨床心理学特論Ⅱ	2	今村友木子	1	後期	月	2		必修
	臨床心理学特論Ⅲ	2	渡辺 恭子	1	後期	水	3		必修
	臨床心理学特論Ⅳ	2	仁里 文美	1	前期	月	4		必修
	臨床心理学特論Ⅴ	2	定松 美幸	1	後期	金	2		D 群
	臨床心理学特論Ⅵ	2	松本真理子	1	後期	集中講義			E 群
	臨床心理学特論Ⅶ	2	根本 眞弓	1	前期	集中講義			E 群
	臨床心理学査定演習Ⅰ	2	加藤 大樹	1	後期	月	3		必修
	臨床心理学査定演習Ⅱ	2	今村友木子	1	前期	月	2		必修
	臨床心理基礎実習Ⅰ	2	川瀬 正裕 渡辺 恭子	1	前期	木	1		必修
					前期	木	2		
	臨床心理基礎実習Ⅱ	2	川瀬 正裕 加藤 大樹	1	後期	木	1		必修
					後期	木	2		
	臨床心理実習Ⅰ	2	今村友木子 二村 彩	2	前期	木	1		必修
					前期	木	2		
	臨床心理実習Ⅱ	2	仁里 文美 二村 彩	2	後期	木	1		必修
					後期	木	2		
	臨床心理学研究演習 (外書講読を含む)	2	加藤 大樹	1	通年	前期	月	2	A 群
			今村友木子			後期	月	4	
特 別 研 究		10	今村友木子	2	通年			必修	
			加藤 大樹						
			川瀬 正裕						
			北折 充隆						
			定松 美幸						
			坪井 貴子						
			中野 修身						
			仁里 文美						
			治田 哲之						
			二村 彩						
			増田 公男						
			宗方比佐子						
			渡辺 恭子						

修得単位について（履修規程第4条による）

（注1）修了に必要な最低修得単位数は30単位です。

（注2）専攻する分野の「研究演習」から2単位修得する必要があります。

（注3）「研究演習」および「特別研究」を除いた科目から18単位以上修得する必要があります。

ただし、各専攻で開設する科目から10単位以上の修得が必要です。

人間生活学研究科・前期課程・人間発達学専攻

2018 年度以降の入学生に適用

科目 区分	授業科目	単位数	担当者	開講 基準 年次	学期	曜日	時限	備考	資格	
									公認 心理師	臨床 心理士
共通科目	人間生活学研究法Ⅰ	2	鋤柄 増根	1	前期	火	2			A群
	人間生活学研究法Ⅱ	2	非開講	1				学部「情報リテラシー」と合併		
	人間生活学研究法Ⅲ	2	非開講	1						
発達学分野	発達環境学特論Ⅰ	2	宗方比佐子	1	前期	木	3	「発達環境学特論Ⅰ」と「発達環境学特論Ⅱ（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）」は対で隔年に開講	必修	C群
	発達環境学特論Ⅱ （産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2	非開講	1						
	発達環境学特論Ⅲ	2	非開講	1						
	発達環境学特論Ⅳ	2	非開講	1						
	発達環境学特論Ⅴ	2	非開講	1						
	発達環境学特論Ⅵ	2	非開講	1						
	発達環境学特論Ⅶ	2	非開講	1						
	発達環境学特論Ⅷ	2	非開講	1						
	発達環境学特論Ⅸ	2	非開講	1						
	発達環境学特論Ⅹ （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A）	2	水野 里恵	1	後期	金	1		必修	C群
	発達環境学特論ⅩⅠ	2	非開講	1						
	発達環境学特論ⅩⅡ	2	非開講	1				文学研究科社会学専攻・前期課程「福祉社会論演習Ⅰ(1)」と合併		
	発達環境学研究演習Ⅰ （外書講読を含む）	1	非開講	1						
	発達環境学研究演習Ⅱ （外書講読を含む）	1	非開講	1						
	発達教育学特論Ⅰ （心理支援に関する理論と実践B）	2	非開講	1				「発達教育学特論Ⅹ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践B）」と対で隔年に開講	必修	B群
	発達教育学特論Ⅱ	2	笠井 尚	1	前期	月	1			
	発達教育学特論Ⅲ	2	坪井 貴子	1	前期	月	4			
	発達教育学特論Ⅳ	2	渡辺 恭子	1	前期	火	3			B群
	発達教育学特論Ⅴ	2	非開講	1						B群
	発達教育学特論Ⅵ	2	清瀧 裕子	1	前期	集中講義		「発達教育学特論Ⅵ」と「発達教育学特論Ⅶ（教育分野に関する理論と支援の展開）」は対で隔年に開講	必修	E群
	発達教育学特論Ⅶ （教育分野に関する理論と支援の展開）	2	非開講	1						
	発達教育学特論Ⅷ	2	非開講	1						
	発達教育学特論Ⅸ	2	非開講	1						D群
	発達教育学特論Ⅹ （家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践B）	2	吉岡 恒生	1	前期	集中講義		「発達教育学特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践B）」と対で隔年に開講	必修	D群
	発達教育学特論ⅩⅠ	2	北折 充隆	1	前期	木	4			
	発達教育学特論ⅩⅡ	2	非開講	1						
	発達教育学研究演習Ⅰ （外書講読を含む）	2	増田 公男	1	通年	木	3	「発達教育学研究演習Ⅰ（外書講読を含む）」と「発達教育学研究演習Ⅱ（外書講読を含む）」は対で隔年に開講		
	発達教育学研究演習Ⅱ （外書講読を含む）	2	非開講	1						

科目 区分	授業科目	単位数	担当者	開講 基準 年次	学期	曜日	時限	備考	資格	
									公認 心理師	臨床 心理士
臨床心理学分野	臨床心理学特論Ⅰ	2	仁里 文美	1	前期	月	3			必修
	臨床心理学特論Ⅱ	2	今村友木子	1	後期	月	2			必修
	臨床心理学特論Ⅲ (心理支援に関する理論と実践A)	2	渡辺 恭子	1	後期	水	3		必修	必修
	臨床心理学特論Ⅳ	2	仁里 文美	1	前期	月	4			必修
	臨床心理学特論Ⅴ (保健医療分野に関する理論と支援の展開)	2	定松 美幸	1	後期	金	2		必修	D群
	臨床心理学特論Ⅵ	2	松本真理子	1	後期	集中講義				E群
	臨床心理学特論Ⅶ	2	根本 眞弓	1	前期	集中講義				E群
	臨床心理学特論Ⅷ (福祉分野に関する理論と支援の展開)	2	二村 彩	1	前期	金	2		必修	
	臨床心理学特論Ⅸ (司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)	2	松嶋 秀明	1	後期	集中講義			必修	
	臨床心理学特論Ⅹ (心の健康教育に関する理論と実践)	2	窪田 由紀	1	後期	集中講義			必修	
	臨床心理学査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)	2	加藤 大樹	1	後期	月	3		必修	必修
	臨床心理学査定演習Ⅱ	2	今村友木子	1	前期	月	2			必修
	臨床心理基礎実習Ⅰ	2	川瀬 正裕 渡辺 恭子	1	前期	木	1			必修
					前期	木	2			
	臨床心理基礎実習Ⅱ	2	川瀬 正裕 加藤 大樹	1	後期	木	1			必修
					後期	木	2			
	心理実践実習Ⅰ	2	川瀬 正裕 今村友木子 加藤 大樹 定松 美幸 仁里 文美 二村 彩 渡辺 恭子	1	通年				必修	
	臨床心理実習Ⅰ (心理実践実習Ⅱ)	2		2					必修	必修
	臨床心理実習Ⅱ	2		2						必修
	心理実践実習Ⅲ	2		2					必修	
	臨床心理学研究演習 (外書講読を含む)	2	加藤 大樹	1	通年	前期	月	2		A群
			今村友木子			後期	月	4		
特別研究		10		2	通年			必修		

人間生活学研究科・後期課程・人間生活学専攻

2010 年度以降の入学生に適用

授業科目		単位数	担当者	学期	曜日	時限	備考
消費者科学領域	消費者科学特殊講義Ⅰ	2	上野 顕子	前期	金	1	
	消費者科学研究演習Ⅰ	6	2 上野 顕子	通年	金	2	1 年目
		2 上野 顕子	通年	金	2	2 年目	
		2 上野 顕子	通年	金	2	3 年目	
	消費者科学特殊講義Ⅱ	2	中森千佳子	前期	水	1	
	消費者科学研究演習Ⅱ	6	2 中森千佳子	通年	木	1	1 年目
		2 中森千佳子	通年	木	1	2 年目	
		2 中森千佳子	通年	木	1	3 年目	
	消費者科学特殊講義Ⅲ	2	奥村 隆平	前期	木	3	
	消費者科学研究演習Ⅲ	6	2 奥村 隆平	通年	木	5	1 年目
2 奥村 隆平		通年	木	5	2 年目		
2 奥村 隆平		通年	木	5	3 年目		
人間環境学領域	人間環境学特殊講義Ⅰ	2	丸山 智美	前期	木	4	
	人間環境学研究演習Ⅰ	6	2 丸山 智美	通年	月	2	1 年目
		2 丸山 智美	通年	月	2	2 年目	
		2 丸山 智美	通年	月	2	3 年目	
	人間環境学特殊講義Ⅱ	2	青山喜久子	前期	金	3	
	人間環境学研究演習Ⅱ	6	2 青山喜久子	通年	金	2	1 年目
		2 青山喜久子	通年	金	2	2 年目	
		2 青山喜久子	通年	金	2	3 年目	
	人間環境学特殊講義Ⅲ	2	非開講				
	人間環境学研究演習Ⅲ	6	2 非開講				
		2 非開講					
		2 非開講					
人間環境学特殊講義Ⅳ	2	日野 知証	後期	木	2		
人間環境学研究演習Ⅳ	6	2 日野 知証	通年	水	1	1 年目	
	2 日野 知証	通年	水	1	2 年目		
	2 日野 知証	通年	水	1	3 年目		
人間発達学領域	人間発達学特殊講義Ⅰ	2	宗方比佐子	前期	火	2	
	人間発達学研究演習Ⅰ	6	2 宗方比佐子	通年	木	2	1 年目
		2 宗方比佐子	通年	木	2	2 年目	
		2 宗方比佐子	通年	木	2	3 年目	
	人間発達学特殊講義Ⅱ	2	非開講				
	人間発達学研究演習Ⅱ	6	2 非開講				
		2 非開講					
		2 非開講					
	人間発達学特殊講義Ⅲ	2	渡辺 恭子	後期	金	1	
	人間発達学研究演習Ⅲ	6	2 渡辺 恭子	通年	金	2	1 年目
		2 渡辺 恭子	通年	金	2	2 年目	
		2 渡辺 恭子	通年	金	2	3 年目	
	人間発達学特殊講義Ⅳ	2	川瀬 正裕	後期	金	1	
	人間発達学研究演習Ⅳ	6	2 川瀬 正裕	通年	金	4	1 年目
2 川瀬 正裕		通年	金	4	2 年目		
2 川瀬 正裕		通年	金	4	3 年目		

修得単位について（学則第 11 条－別表Ⅱによる）

（注）演習科目については、1 年間で 2 単位、3 年間で計 6 単位の修得が必要です。

時間割表

2018年度 人間生活学研究科時間割表

【前期】

2017年度以前の入学生に適用

		前期課程・消費者科学専攻			前期課程・人間発達学専攻			後期課程・人間生活学専攻		
		授業科目名	担当者	通年	授業科目名	担当者	通年	授業科目名	担当者	通年
月	1限	生活の質特論研究演習Ⅲ（外書講読を含む）	北森一哉	通	発達教育学特論Ⅱ	笠井 尚				
	2限	消費生活特論Ⅴ	古寺 浩		臨床心理学査定演習Ⅱ	今村友木子		人間環境学研究演習Ⅰ	丸山智美	通
	3限	消費生活特論Ⅳ	篠原康郎		臨床心理学特論Ⅰ	仁里文美				
	4限	消費生活特論Ⅶ	中森千佳子		臨床心理学特論Ⅳ 発達教育学特論Ⅲ	仁里文美 坪井貴子				
火	1限									
	2限	人間生活学研究法Ⅰ	鋤柄増根		人間生活学研究法Ⅰ	鋤柄増根		人間発達学特殊講義Ⅰ	宗方比佐子	
	3限	消費生活特論研究演習Ⅱ（外書講読を含む）	中森千佳子	通	発達教育学特論Ⅳ	渡辺恭子				
	4限									
水	1限							消費者科学特殊講義Ⅱ 人間環境学研究演習Ⅳ	中森千佳子 日野知証	通
	2限	生活の質特論Ⅰ 生活の質特論研究演習Ⅱ（外書講読を含む）	青山喜久子 平林由果	通						
	3限	生活の質特論Ⅴ	北森一哉							
	4限	消費生活特論Ⅰ	鬼頭由美子							
木	1限				臨床心理基礎実習Ⅰ 臨床心理実習Ⅰ	川瀬・渡辺 今村・二村	▼ ▼	消費者科学研究演習Ⅱ	中森千佳子	通
	2限	消費生活特論研究演習Ⅰ（外書講読を含む） 消費生活特論研究演習Ⅲ（外書講読を含む）	奥村隆平 上野顕子	通 通	臨床心理基礎実習Ⅰ 臨床心理実習Ⅰ	川瀬・渡辺 今村・二村	▲ ▲	人間発達学研究演習Ⅰ	宗方比佐子	通
	3限				発達教育学研究演習Ⅰ（外書講読を含む） 発達環境学特論Ⅰ	増田公男 宗方比佐子	通	消費者科学特殊講義Ⅲ	奥村隆平	
	4限				発達教育学特論ⅩⅠ	北折充隆		人間環境学特殊講義Ⅰ	丸山智美	
	5限							消費者科学研究演習Ⅲ	奥村隆平	通
金	1限	生活の質特論研究演習Ⅰ（外書講読を含む）	青山喜久子	通	臨床心理学研究演習（外書講読を含む）	加藤大樹	通	消費者科学特殊講義Ⅰ	上野顕子	
	2限							消費者科学研究演習Ⅰ 人間環境学研究演習Ⅱ 人間発達学研究演習Ⅲ	上野顕子 青山喜久子 渡辺恭子	通 通 通
	3限							人間環境学特殊講義Ⅱ	青山喜久子	
	4限							人間発達学研究演習Ⅳ	川瀬正裕	通
	5限	生活の質特論研究演習Ⅳ（外書講読を含む）	丸山智美	通						
土	2限	生活の質特論ⅩⅢ	丸山智美							

▼は、次の時間に続いています。▲は、前の時間から続いています。

【集中講義】

前期課程・人間発達学専攻

臨床心理学特論Ⅶ	根本眞弓	8月8日(水)・9日(木)・10日(金)各1～5限
発達教育学特論Ⅶ	清瀧裕子	9月4日(火)・5日(水)・7(金)各1～5限
発達教育学特論Ⅹ	吉岡恒生	8月27(月)・28日(火)・29日(水)各1～5限

☆上記日程は変更の可能性があります。K-PORTにてお知らせしますので確認してください。

【日付不定】

前期課程・消費者科学専攻

特別研究
青山・網岡・上野・奥村・加藤(悠)・岸 北森・古寺・篠原・中森・永津・日野 平林・丸山(智)・宮坂・吉川

前期課程・人間発達学専攻

特別研究
今村・加藤(大)・川瀬・北折・定松・坪井 中野・仁里・治田・二村・増田・宗方・渡辺

2018年度 人間生活学研究科時間割表

【後期】

2017年度以前の入学生に適用

		前期課程・消費者科学専攻			前期課程・人間発達学専攻			後期課程・人間生活学専攻		
		授業科目名	担当者	通年	授業科目名	担当者	通年	授業科目名	担当者	通年
月	1限									
	2限	生活の質特論研究演習Ⅲ（外書講読を含む）	北森一哉	通	臨床心理学特論Ⅱ	今村友木子		人間環境学研究演習Ⅰ	丸山智美	通
	3限				臨床心理学査定演習Ⅰ	加藤大樹				
	4限				臨床心理学研究演習（外書講読を含む）	今村友木子	通			
火	1限	消費生活特論ⅩⅡ 生活の質特論Ⅳ	日野知証 平林由果							
	2限									
	3限	消費生活特論研究演習Ⅱ（外書講読を含む）	中森千佳子	通						
	4限	生活の質特論Ⅶ	加藤悠介							
水	1限	消費生活特論Ⅸ	吉田耕治					人間環境学研究演習Ⅳ	日野知証	通
	2限									
	3限	生活の質特論研究演習Ⅱ（外書講読を含む）	平林由果	通	臨床心理学特論Ⅲ	渡辺恭子				
	4限									
木	1限				臨床心理基礎実習Ⅱ 臨床心理実習Ⅱ	川瀬・加藤 仁里・二村	▼ ▼	消費者科学研究演習Ⅱ	中森千佳子	通
	2限	消費生活特論研究演習Ⅰ（外書講読を含む）	奥村隆平	通	臨床心理基礎実習Ⅱ 臨床心理実習Ⅱ	川瀬・加藤 仁里・二村	▲ ▲	人間環境学特殊講義Ⅳ 人間発達学研究演習Ⅰ	日野知証 宗方比佐子	通
	3限				発達教育学研究演習Ⅰ（外書講読を含む）	増田公男	通			
	4限	消費生活特論Ⅱ	上野顕子							
	5限	生活の質特論研究演習Ⅳ（外書講読を含む）	丸山智美	通				消費者科学研究演習Ⅲ	奥村隆平	通
金	1限	生活の質特論研究演習Ⅰ（外書講読を含む）	青山喜久子	通	発達環境学特論Ⅹ	水野里恵		人間発達学特殊講義Ⅲ 人間発達学特殊講義Ⅳ	渡辺恭子 川瀬正裕	
	2限	消費生活特論研究演習Ⅲ（外書講読を含む）	古寺 浩	通	臨床心理学特論Ⅴ	定松美幸		消費者科学研究演習Ⅰ 人間環境学研究演習Ⅱ 人間発達学研究演習Ⅲ	上野顕子 青山喜久子 渡辺恭子	通 通 通
	3限									
	4限							人間発達学研究演習Ⅳ	川瀬正裕	通

▼は、次の時間に続いています。▲は、前の時間から続いています。

【集中講義】

前期課程・人間発達学専攻

臨床心理学特論Ⅵ	松本真理子	9月18日(火)1～5限、19日(水)1～2限、 20日(木)3～5限、29日(土)1～5限
----------	-------	---

☆上記日程は変更の可能性があります。K-PORTにてお知らせしますので各自確認してください。

【日付不定】

前期課程・消費者科学専攻

特別研究
青山・網岡・上野・奥村・加藤(悠)・岸 北森・古寺・篠原・中森・永津・日野 平林・丸山(智)・宮坂・吉川

前期課程・人間発達学専攻

特別研究
今村・加藤(大)・川瀬・北折・定松・坪井 中野・仁里・治田・二村・増田・宗方・渡辺

2018年度 人間生活学研究科時間割表

【前期】

2018年度以降の入学生に適用

		前期課程・消費者科学専攻			前期課程・人間発達学専攻			後期課程・人間生活学専攻		
		授業科目名	担当者	通年	授業科目名	担当者	通年	授業科目名	担当者	通年
月	1限	生活の質特論研究演習Ⅲ（外書講読を含む）	北森一哉	通	発達教育学特論Ⅱ	笠井 尚				
	2限	消費生活特論Ⅴ	古寺 浩		臨床心理学査定演習Ⅱ	今村友木子		人間環境学研究演習Ⅰ	丸山智美	通
	3限	消費生活特論Ⅳ	篠原康郎		臨床心理学特論Ⅰ	仁里文美				
	4限	消費生活特論Ⅶ	中森千佳子		臨床心理学特論Ⅳ 発達教育学特論Ⅲ	仁里文美 坪井貴子				
火	1限									
	2限	人間生活学研究法Ⅰ	鋤柄増根		人間生活学研究法Ⅰ	鋤柄増根		人間発達学特殊講義Ⅰ	宗方比佐子	
	3限	消費生活特論研究演習Ⅱ（外書講読を含む）	中森千佳子	通	発達教育学特論Ⅳ	渡辺恭子				
	4限									
水	1限							消費者科学特殊講義Ⅱ 人間環境学研究演習Ⅳ	中森千佳子 日野知証	通
	2限	生活の質特論Ⅰ 生活の質特論研究演習Ⅱ（外書講読を含む）	青山喜久子 平林由果	通						
	3限	生活の質特論Ⅴ	北森一哉							
	4限	消費生活特論Ⅰ	鬼頭由美子							
木	1限				臨床心理基礎実習Ⅰ	川瀬・渡辺	▼	消費者科学研究演習Ⅱ	中森千佳子	通
	2限	消費生活特論研究演習Ⅰ（外書講読を含む） 消費生活特論研究演習Ⅲ（外書講読を含む）	奥村隆平 上野顕子	通 通	臨床心理基礎実習Ⅰ	川瀬・渡辺	▲	人間発達学研究演習Ⅰ	宗方比佐子	通
	3限				発達教育学研究演習Ⅰ（外書講読を含む） 発達環境学特論Ⅰ	増田公男 宗方比佐子	通	消費者科学特殊講義Ⅲ	奥村隆平	
	4限				発達教育学特論ⅩⅠ	北折充隆		人間環境学特殊講義Ⅰ	丸山智美	
	5限							消費者科学研究演習Ⅲ	奥村隆平	通
金	1限	生活の質特論研究演習Ⅰ（外書講読を含む）	青山喜久子	通	臨床心理学研究演習（外書講読を含む）	加藤大樹	通	消費者科学特殊講義Ⅰ	上野顕子	
	2限				臨床心理学特論Ⅷ（福祉分野に関する理論と支援の展開）	二村 彩		消費者科学研究演習Ⅰ 人間環境学研究演習Ⅱ 人間発達学研究演習Ⅲ	上野顕子 青山喜久子 渡辺恭子	通 通 通
	3限							人間環境学特殊講義Ⅱ	青山喜久子	
	4限							人間発達学研究演習Ⅳ	川瀬正裕	通
	5限	生活の質特論研究演習Ⅳ（外書講読を含む）	丸山智美	通						
土	2限	生活の質特論ⅩⅢ	丸山智美							

▼は、次の時間に続いています。▲は、前の時間から続いています。

【集中講義】

前期課程・人間発達学専攻

臨床心理学特論Ⅶ	根本真弓	8月8日(水)・9日(木)・10日(金)各1～5限
発達教育学特論Ⅵ	清瀬裕子	9月4日(火)・5日(水)・7(金)各1～5限
発達教育学特論Ⅹ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ）	吉岡恒生	8月27(月)・28日(火)・29日(水)各1～5限

☆上記日程は変更の可能性があります。K-PORTにてお知らせしますので確認してください。

【日付不定】

前期課程・消費者科学専攻

特別研究
青山・網岡・上野・奥村・加藤(悠)・岸 北森・古寺・篠原・中森・永津・日野 平林・丸山(智)・宮坂・吉川

前期課程・人間発達学専攻

心理実践実習Ⅰ
今村・加藤(大)・川瀬・定松・仁里・二村・渡辺
特別研究

2018年度 人間生活学研究科時間割表

【後期】

2018年度以降の入学生に適用

		前期課程・消費者科学専攻			前期課程・人間発達学専攻			後期課程・人間生活学専攻		
		授業科目名	担当者	通年	授業科目名	担当者	通年	授業科目名	担当者	通年
月	1限									
	2限	生活の質特論研究演習Ⅲ（外書講読を含む）	北森一哉	通	臨床心理学特論Ⅱ	今村友木子		人間環境学研究演習Ⅰ	丸山智美	通
	3限				臨床心理学査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	加藤大樹				
	4限				臨床心理学研究演習（外書講読を含む）	今村友木子	通			
火	1限	消費生活特論ⅩⅡ 生活の質特論Ⅳ	日野知証 平林由果							
	2限									
	3限	消費生活特論研究演習Ⅱ（外書講読を含む）	中森千佳子	通						
	4限	生活の質特論Ⅶ	加藤悠介							
水	1限	消費生活特論Ⅹ	吉田耕治					人間環境学研究演習Ⅳ	日野知証	通
	2限									
	3限	生活の質特論研究演習Ⅱ（外書講読を含む）	平林由果	通	臨床心理学特論Ⅲ（心理支援に関する理論と実践A）	渡辺恭子				
	4限									
木	1限				臨床心理基礎実習Ⅱ	川瀬・加藤	▼	消費者科学研究演習Ⅱ	中森千佳子	通
	2限	消費生活特論研究演習Ⅰ（外書講読を含む）	奥村隆平	通	臨床心理基礎実習Ⅱ	川瀬・加藤	▲	人間環境学特殊講義Ⅳ 人間発達学研究演習Ⅰ	日野知証 宗方比佐子	通
	3限				発達教育学研究演習Ⅰ（外書講読を含む）	増田公男	通			
	4限	消費生活特論Ⅱ	上野顕子							
	5限	生活の質特論研究演習Ⅳ（外書講読を含む）	丸山智美	通				消費者科学研究演習Ⅲ	奥村隆平	通
金	1限	生活の質特論研究演習Ⅰ（外書講読を含む）	青山喜久子	通	発達環境学特論Ⅹ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A）	水野里恵		人間発達学特殊講義Ⅲ 人間発達学特殊講義Ⅳ	渡辺恭子 川瀬正裕	
	2限	消費生活特論研究演習Ⅲ（外書講読を含む）	古寺 浩	通	臨床心理学特論Ⅴ（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	定松美幸		消費者科学研究演習Ⅰ 人間環境学研究演習Ⅱ 人間発達学研究演習Ⅲ	上野顕子 青山喜久子 渡辺恭子	通 通 通
	3限									
	4限							人間発達学研究演習Ⅳ	川瀬正裕	通

▼は、次の時間に続いています。▲は、前の時間から続いています。

【集中講義】

前期課程・人間発達学専攻

臨床心理学特論Ⅵ	松本真理子	9月18日(火)1～5限、19日(水)1～2限、20日(木)3～5限、29日(土)1～5限
臨床心理学特論Ⅸ（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	松嶋秀明	2月12日(火)3～5限、13日(水)1～5限、14日(木)1～5限、15日(金)1～2限
臨床心理学特論Ⅹ（心の健康教育に関する理論と実践）	窪田由紀	2月4日(月)1～5限、5日(火)1～5限、6日(水)1～5限

☆上記日程は変更の可能性があります。K-PORTにてお知らせしますので各自確認してください。

【日付不定】

前期課程・消費者科学専攻

特別研究
青山・岡岡・上野・奥村・加藤(悠)・岸北森・古寺・篠原・中森・永津・日野平林・丸山(智)・宮坂・吉川

前期課程・人間発達学専攻

心理実践実習Ⅰ
今村・加藤(大)・川瀬・定松・仁里・二村・渡辺
特別研究

資格取得について

◆ 取得できる資格 ◆

■ 中学校及び高等学校教諭専修免許状取得について

1. 中学校教諭専修免許状及び高等学校教諭専修免許状とは

教師になった場合、校長や教頭といった管理職になるためには専修免許状が求められることがあり、専修免許状取得は、一種免許状をグレードアップする意味を持ちます。

基礎資格は、①中学校教諭一種免許状（家庭）、または高等学校教諭一種免許状（家庭）を有し、②本学大学院において修士の学位を修得すること、または大学院に1年以上在学し30単位以上取得していることです。これに加え、消費者科学専攻で開設する授業科目のうち、教科に関する科目として下表に掲げる科目から24単位以上を取得すると、中学校教諭一種免許状（家庭）所有者は中学校教諭専修免許状（家庭）が、高等学校教諭一種免許状（家庭）所有者は高等学校教諭専修免許状（家庭）が取得できます。

修了と同時に免許状を取得する場合は、本学から一括して愛知県教育委員会に申請します。免許状は、修了年次の9月に申請申し込みをし、11月に申請書類を記入した後、修了時に受理するということになります。

2. 資格認定機関

文部科学省により認定されます。免許状申請資格を有する者には、愛知県教育委員会に申請することにより、専修免許状が授与されます。

3. 資格取得に関する科目

消費者科学専攻では、専修免許状取得科目を以下のように用意しています。

教科に関する科目	消費生活特論 I, II, III, IV, V, VI, VII, VIII, IX, X, XI, XII, XIII, XIV, XV, XVI	各2単位
	消費生活特論研究演習 I, II, III, IV（外書講読を含む）	
	生活の質特論 I, II, III, IV, V, VI, VII, VIII, IX, X, XI, XII, XIII, XIV, XV, XVI	
	生活の質特論研究演習 I, II, III, IV（外書講読を含む）	
	特別研究	10単位

4. 資格取得に要する費用

申請費用として、1教科につき3,500円が必要です。

■幼稚園教諭専修免許状取得について

1. 幼稚園教諭専修免許状とは

幼稚園教諭の免許の種類は、1種免許、2種免許、専修免許の3種類があります。幼稚園教諭1種免許状の所有資格を有する者で、修士の学位を有するか、大学院に1年以上在学し、30単位以上を修得すると幼稚園教諭専修免許状が取得できます。

2. 資格認定機関

文部科学省により認定されます。免許状申請資格を有する者には、愛知県教育委員会に申請することにより、幼稚園教諭専修免許状が授与されます。

3. 資格取得に関する科目

幼稚園教諭専修免許状の取得を希望する者は、人間発達学専攻で開設する授業科目のうち、以下の教科及び教職に関する科目から、24単位以上を修得しなければなりません。

【2018年度以降の入学生に適用】

教科に関する科目	発達環境学特論Ⅶ	2単位
教職に関する科目	人間生活学研究法Ⅰ 発達環境学特論Ⅰ 発達環境学特論Ⅱ（産業・労働分野に関する理論と支援の展開） 発達環境学特論Ⅳ 発達環境学特論Ⅹ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A） 発達環境学研究演習Ⅰ（外書講読を含む） 発達教育学特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践B） 発達教育学特論Ⅱ 発達教育学特論Ⅲ 発達教育学特論Ⅳ 発達教育学特論Ⅵ 発達教育学特論Ⅶ（教育分野に関する理論と支援の展開） 発達教育学特論Ⅹ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践B） 発達教育学特論ⅩⅠ 発達教育学特論ⅩⅡ 発達教育学研究演習Ⅰ（外書講読を含む） 発達教育学研究演習Ⅱ（外書講読を含む） 臨床心理学特論Ⅰ 臨床心理学特論Ⅱ 臨床心理学特論Ⅲ（心理支援に関する理論と実践A） 臨床心理学特論Ⅳ 臨床心理学特論Ⅴ 臨床心理学特論Ⅵ 臨床心理学特論Ⅶ	各2単位
	特別研究	10単位

【2017年度以前の入学生に適用】

教科に関する科目	発達環境学特論Ⅶ	2 単位
教職に関する科目	人間生活学研究法Ⅰ	各 2 単位
	発達環境学特論Ⅰ	
	発達環境学特論Ⅱ	
	発達環境学特論Ⅲ	
	発達環境学特論Ⅳ	
	発達環境学特論Ⅴ	
	発達環境学特論Ⅵ	
	発達環境学特論Ⅷ	
	発達環境学特論Ⅸ	
	発達環境学特論Ⅹ	
	発達環境学特論ⅩⅠ	
	発達環境学特論ⅩⅡ	
	発達環境学研究演習Ⅰ（外書講読を含む）	
	発達環境学研究演習Ⅱ（外書講読を含む）	
	発達教育学特論Ⅰ	
	発達教育学特論Ⅱ	
	発達教育学特論Ⅲ	
	発達教育学特論Ⅳ	
	発達教育学特論Ⅴ	
	発達教育学特論Ⅵ	
	発達教育学特論Ⅶ	
	発達教育学特論Ⅷ	
	発達教育学特論Ⅸ	
	発達教育学特論Ⅹ	
	発達教育学特論ⅩⅠ	
	発達教育学特論ⅩⅡ	
	発達教育学研究演習Ⅰ（外書講読を含む）	
	発達教育学研究演習Ⅱ（外書講読を含む）	
	臨床心理学特論Ⅰ	
	臨床心理学特論Ⅱ	
	臨床心理学特論Ⅲ	
	臨床心理学特論Ⅳ	
	臨床心理学特論Ⅴ	
	臨床心理学特論Ⅵ	
	臨床心理学特論Ⅶ	
	臨床心理学査定演習Ⅰ	
	臨床心理学査定演習Ⅱ	
	臨床心理基礎実習Ⅰ	
	臨床心理基礎実習Ⅱ	
	臨床心理実習Ⅰ	
	臨床心理実習Ⅱ	
	臨床心理学研究演習（外書講読を含む）	
	特別研究	10単位

4. 資格取得に要する費用

大学の一括申請による場合は、申請費用3,500円が必要です。

◆ 受験資格が得られる資格 ◆

■ 公認心理師の資格について

1. 公認心理師とは

公認心理師は、心理職の唯一の国家資格で、病院・学校・福祉機関・司法関係・企業などでカウンセリングをはじめとしたさまざまな心理的援助を行う専門職の資格です。その業務については、「公認心理師法」に以下のように述べられています。

- (1) 心理に関する支援を要する者の心理状態を観察し、その結果を分析すること。
- (2) 心理に関する支援を要する者に対し、その心理に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。
- (3) 心理に関する支援を要する者の関係者に対し、その相談に応じ、助言、指導その他の援助を行うこと。
- (4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供を行うこと。

2. 所管機関

文部科学省および厚生労働省の共同所管

3. 受験資格取得のための科目

下記の表にある「必修」科目をすべて履修し、博士課程・前期課程・人間発達学専攻臨床心理学分野を修了することで受験資格を取得することができます。

省令で定める指定科目		区分	左記に対応する本大学院開設授業科目、単位数、開講形態および開講年次			
			開設授業科目	単位数	開講形態	開講年次
①	保健医療分野に関する理論と支援の展開	必修	臨床心理学特論Ⅴ（保健医療分野に関する理論と支援の展開）	2	毎年開講	1年次
②	福祉分野に関する理論と支援の展開	必修	臨床心理学特論Ⅷ（福祉分野に関する理論と支援の展開）	2	毎年開講	1年次
③	教育分野に関する理論と支援の展開	必修	発達教育学特論Ⅶ（教育分野に関する理論と支援の展開）	2	隔年開講	1年次
④	司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開	必修	臨床心理学特論Ⅸ（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	2	毎年開講	1年次
⑤	産業・労働分野に関する理論と支援の展開	必修	発達環境学特論Ⅱ（産業・労働分野に関する理論と支援の展開）	2	隔年開講	1年次
⑥	心理的アセスメントに関する理論と実践	必修	臨床心理学査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	毎年開講	1年次
⑦	心理支援に関する理論と実践	必修	臨床心理学特論Ⅲ（心理支援に関する理論と実践Ⅰ）	2	毎年開講	1年次
		必修	発達教育学特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践Ⅱ）	2	隔年開講	1年次
⑧	家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践	必修	発達環境学特論Ⅹ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ）	2	毎年開講	1年次
		必修	発達教育学特論Ⅹ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ）	2	隔年開講	1年次
⑨	心の健康教育に関する理論と実践	必修	臨床心理学特論Ⅹ（心の健康教育に関する理論と実践）	2	毎年開講	1年次
⑩	心理実践実習	必修	心理実践実習Ⅰ	2	毎年開講	1年次
		必修	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）	2	毎年開講	2年次
		必修	心理実践実習Ⅲ	2	毎年開講	2年次

4. 「心理実践実習」の内容および時間数

「心理実践実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」においては、医療機関を含めた複数の領域において、心理的支援を要する者等に対する実践を行うこととするとともに見学を適宜行います。その内容は次のとおりです。

(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得

- ①コミュニケーション
- ②心理検査
- ③心理面接
- ④地域支援等

(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握および支援計画の作成

(ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ

(エ) 他職種連携および地域連携

(オ) 公認心理師の職業倫理及び法的義務への理解

なお、それぞれの時間数は下表に示すとおりです。

科目名	開講時期	領 域	学内		学外	
			ケース担当	担当外	ケース担当 (90h以上)	担当外
心理実践実習Ⅰ	1 年通年	医療・保健分野			20	
		福祉分野				3
		産業分野				3
		学内担当ケース	10			
		担当ケースSV	10			
		学内ケース検討		50		
心理実践実習Ⅱ	2 年前期	学外施設実習			36	48
		学外施設見学実習				3
		実習指導				45
		学内担当ケース	44			
		担当ケースSV	44			
心理実践実習Ⅲ	2 年後期	学外施設実習			36	48
		学外施設見学実習				3
		実習指導				45
		学内担当ケース	44			
		担当ケースSV	44			
合 計			196	50	92	198

ケース担当実習 (270h以上)	学内	196時間
	学外	92時間
ケース担当外実習	学内	50時間
	学外	198時間
総実習時間数 (450 h 以上)		536時間

* 心理実践実習Ⅱ、Ⅲのいずれかにおいて、医療機関での実践的実習を行います。

* 心理実践実習Ⅱ、Ⅲにおいて、実習期間中に教育の巡回指導を行います。

5. 資格取得に要する費用

資格取得をするためには、学納金とは別に課程履修費が必要です。課程履修費は、15,600円（1年次）、35,100円（2年次）です。なお、実習の際には学研災付帯賠償保険料340円が必要です。

■臨床心理士の資格について

1. 臨床心理士とは

臨床心理士の資格を取ると、心の問題を抱えた子どもから高齢者まで、また、発達障害児などに対して広く援助を行う「心の専門家」として、病院、クリニック、児童相談所、福祉施設、保健所、学校現場などで、カウンセリングを行ったり、コンサルテーションを行ったり、心理的な面からの援助を行うなどの活躍ができます。

2. 資格認定機関

財団法人日本臨床心理士資格認定協会

3. 資格取得に関する科目

下記の必修科目20単位、および選択必修科目群A、B、C、D、Eからそれぞれ2単位以上、計30単位以上を取得し、人間発達学専攻臨床心理学分野博士課程前期課程を修了すると、修了した年以降の臨床心理士資格試験の受験資格が与えられます。

【2018年度以降の入学生に適用】

日本臨床心理士資格認定協会				左記に対応する本大学院開設授業科目、単位数および開講形態		
区分	群	指定授業科目名	単位数	開設授業科目名【副題】	単位数	開講形態
必修	臨床心理学特論		4	臨床心理学特論Ⅰ	2	毎年1年次
				臨床心理学特論Ⅱ	2	毎年1年次
必修	臨床心理面接特論		4	臨床心理学特論Ⅲ（心理支援に関する理論と実践A）【臨床心理面接特論】	2	毎年1年次
				臨床心理学特論Ⅳ【臨床心理面接特論】	2	毎年1年次
必修	臨床心理査定演習		4	臨床心理学査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）	2	毎年1年次
				臨床心理学査定演習Ⅱ	2	毎年1年次
必修	臨床心理基礎実習		2	臨床心理基礎実習Ⅰ	2	毎年1年次
				臨床心理基礎実習Ⅱ	2	毎年1年次
必修	臨床心理実習		2	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）	2	毎年2年次
				臨床心理実習Ⅱ	2	毎年2年次
選択必修	A	心理統計法特論 臨床心理学研究法特論	2	人間生活学研究法Ⅰ【心理統計法特論】	2	毎年開講
				臨床心理学研究演習（外書講読を含む）	2	毎年開講
選択必修	B	学習心理学特論 発達心理学特論	2	発達教育学特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践B）【学習心理学特論】	2	隔年開講
				発達教育学特論Ⅳ【発達心理学特論】	2	毎年開講
選択必修	C	社会心理学特論 家族心理学特論	2	発達環境学特論Ⅰ【社会心理学特論】	2	隔年開講
				発達環境学特論Ⅹ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践A）【家族心理学特論】	2	毎年開講
選択必修	D	障害者（児）心理学特論 精神医学特論	2	発達教育学特論Ⅹ（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践B）【障害（児）心理学特論】	2	隔年開講
				臨床心理学特論Ⅴ（保健医療分野に関する理論と支援の展開）【精神医学特論】	2	毎年開講
選択必修	E	学校臨床心理学特論 投映法特論 心理療法特論	2	発達教育学特論Ⅵ【学校臨床心理学特論】	2	隔年開講
				臨床心理学特論Ⅵ【投映法特論】	2	毎年開講
				臨床心理学特論Ⅶ【心理療法特論】	2	毎年開講

【2017年度以前の入学生に適用】

日本臨床心理士資格認定協会				左記に対応する本大学院開設授業科目、単位数および開講形態		
区分	群	指定授業科目名	単位数	開設授業科目名【副題】	単位数	開講形態
必修	臨床心理学特論		4	臨床心理学特論Ⅰ	2	毎年1年次
				臨床心理学特論Ⅱ	2	毎年1年次
必修	臨床心理面接特論		4	臨床心理学特論Ⅲ【臨床心理面接特論】	2	毎年1年次
				臨床心理学特論Ⅳ【臨床心理面接特論】	2	毎年1年次
必修	臨床心理査定演習		4	臨床心理学査定演習Ⅰ	2	毎年1年次
				臨床心理学査定演習Ⅱ	2	毎年1年次
必修	臨床心理基礎実習		2	臨床心理基礎実習Ⅰ	2	毎年1年次
				臨床心理基礎実習Ⅱ	2	毎年1年次
必修	臨床心理実習		2	臨床心理実習Ⅰ	2	毎年2年次
				臨床心理実習Ⅱ	2	毎年2年次
選択必修	A	心理統計法特論 臨床心理学研究法特論	2	人間生活学研究法Ⅰ【心理統計法特論】	2	毎年開講
				臨床心理学研究演習（外書講読を含む）	2	毎年開講
選択必修	B	学習心理学特論 発達心理学特論 教育心理学特論	2	発達教育学特論Ⅰ【学習心理学特論】	2	隔年開講
				発達教育学特論Ⅳ【発達心理学特論】	2	毎年開講
				発達教育学特論Ⅴ【教育心理学特論】	2	毎年開講
選択必修	C	社会心理学特論 家族心理学特論	2	発達環境学特論Ⅰ【社会心理学特論】	2	隔年開講
				発達環境学特論Ⅹ【家族心理学特論】	2	毎年開講
選択必修	D	発達臨床心理学特論 障害者（児）心理学特論 精神医学特論	2	発達教育学特論Ⅸ【発達臨床心理学特論】	2	毎年開講
				発達教育学特論Ⅹ【障害（児）心理学特論】	2	隔年開講
				臨床心理学特論Ⅴ【精神医学特論】	2	毎年開講
選択必修	E	学校臨床心理学特論 投映法特論 心理療法特論	2	発達教育学特論Ⅵ【学校臨床心理学特論】	2	隔年開講
				臨床心理学特論Ⅵ【投映法特論】	2	毎年開講
				臨床心理学特論Ⅶ【心理療法特論】	2	毎年開講

4. 資格取得に要する費用

本課程を履修するには学納金とは別に課程履修費等が必要です。課程履修費は、20,850円（1年次）、79,400円（2年次）です。なお、実習の際には学研災付帯賠償責任保険料340円が必要です。

■シニア産業カウンセラーの資格について

1. シニア産業カウンセラーとは

職場で悩みを持つ人の相談に応じるカウンセラーの資格に、「産業カウンセラー」と「シニア産業カウンセラー」があります。大学院において産業カウンセリング関連の理論および実践をより深く学習することで、シニア産業カウンセラー等のレベルの高い産業カウンセラー資格の取得が可能となります。シニア産業カウンセラーは、職場でカウンセリングをおこなうカウンセラーであり、働く人たちが抱える問題を自らの力で解決できるように、心理学的手法を用いて援助することを主たる業務としています。公的な資格ではありませんが社会的要請が高く、実際に多くのシニア産業カウンセラーが活躍しています。

2. 資格認定機関

社団法人日本産業カウンセラー協会が資格認定機関となっています。協会は1960年に設立され、1970年には労働省所管の公益法人として認可されたという経緯があり、広く産業界にカウンセラーを送り出してきました。現在では、厚生労働省が認定するキャリアコンサルタントの養成機関としても定評があります。

3. 資格取得に関する科目

産業カウンセラーの資格を有し、大学院研究科において心理学又は心理学隣接諸科学、人間科学、人間関係学のいずれかの名称を冠する専攻の修了者であって、次号に定めるA群からG群までの科目において、1科目を2単位以内として4科目以上、8単位以上を取得していることを要する。ただし、D群からG群の科目による取得単位は2単位以内とする。

なお、本研究科で開講される科目と以下の科目群との対応については、資格担当教員（宗方比佐子）が指導いたします。

【科目群について】 ※産業カウンセラー、シニア産業カウンセラーとも共通

A群：産業カウンセリング、カウンセリング、臨床心理学、心理療法各論（精神分析・行動療法など）などの科目群

B群：カウンセリング演習、カウンセリング実習などの科目群

C群：人格心理学、心理アセスメント法などの科目群

D群：キャリア・カウンセリング、キャリア概論などの科目群

E群：産業心理学、産業・組織心理学、グループダイナミックス、人間関係論などの科目群

F群：労働法令の科目群

G群：精神医学、精神保健、精神衛生、心身医学、ストレス学、職場のメンタルヘルスなどの科目群

4. 資格取得に要する費用

シニア産業カウンセラーの受験費用は、以下のとおりです。

(1) 学科試験 12,600円

(2) 実技試験 29,400円

(2017年度実績)

◆ 推奨する資格 ◆

■消費生活アドバイザーの資格について

1. 消費生活アドバイザーとは

★企業や行政機関・各種団体等の消費者関連部門にあって、消費者と企業・行政等とのパイプ役として、消費者の意向を企業経営や行政に反映させ、また消費者からの相談等に対し、適切な助言を行う消費者問題のエキスパートです。内閣総理大臣及び経済産業大臣事業認定資格です。

具体的には次のような活動を行っています。

- ・商品・サービス等に関する苦情相談及び使い方に関する相談や助言
- ・商品の性能、安全性等、使用目的に応じた買い物相談や助言
- ・商品の企画・開発に関して、消費者の立場からの提言や助言
- ・消費者向けのパンフレットや商品説明書など各種資料の作成及びチェック
- ・商品テスト、モニター、市場調査等を通した消費者の意向を反映した各種提言
- ・消費者トラブルの解決のための相談や助言

★消費生活アドバイザー資格試験は消費生活相談員資格試験を兼ねる形で実施されますので、合格者は消費生活アドバイザー資格と消費生活相談員資格の両方を同時に取得できます。

2. 認定試験機関

一般財団法人日本産業協会

3. 資格取得に関する科目

本学では、消費生活アドバイザー資格取得を支援する「資格取得支援科目」と、消費生活アドバイザー資格とのかかわりの深い「資格取得関連科目」を用意しています。開講される科目については、資格担当教員が指導し、関連情報を提供します。

資格取得支援科目	消費生活特論Ⅰ
資格取得関連科目	消費生活特論Ⅱ
	消費生活特論Ⅲ
	消費生活特論Ⅳ
	消費生活特論Ⅴ
	消費生活特論Ⅵ
	消費生活特論Ⅶ
	消費生活特論Ⅷ
	消費生活特論Ⅸ
	消費生活特論Ⅹ
	消費生活特論研究演習Ⅰ
	消費生活特論研究演習Ⅱ
	消費生活特論研究演習Ⅲ

4. 資格取得に要する費用

受験料15,660円（税込）（2017年度実績）

■消費生活相談員資格（国家資格）について

1. 消費生活相談員資格とは

★消費生活相談員は、国や地方公共団体等が行う消費生活相談に携わる専門職です。消費者からの相談に対応するための一定水準以上の知識と能力を持ち合わせていることが求められます。活躍の場は主に全国各地の消費生活センター等で、消費者から消費者トラブルについて直接相談を受け、解決に向けて助言や事業者へのあっせんを行います。

【参考】消費者安全法が改正（2014年6月）され、地方公共団体における消費生活相談体制を強化するために、消費生活センター等に事業者に対する消費者からの苦情に係る相談・あっせんに従事する消費生活相談員を置くこととし、消費生活相談員は、消費生活相談員資格試験に合格した者またはこれと同等以上の専門的な知識及び技術を有すると都道府県知事または市町村長が認めたものから任用することになりました。2016年度同法施行にともない内閣総理大臣認可事業として、消費生活相談員資格制度が始まりました。

★消費生活相談員資格試験は、「消費生活専門相談員」資格認定試験を兼ねています。合格者には、独立法人国民生活センター理事長により「消費生活専門相談員」（更新制）の資格が認定されます。「消費生活専門相談員」は消費生活相談業務に携わる専門家で、内閣総理大臣事業認定資格です。

★消費生活相談員資格は、消費生活アドバイザー資格試験（認定試験機関：一般財団法人日本産業協会）合格者も取得できます。

2. 登録試験機関

独立行政法人国民生活センター

3. 資格取得に関する科目

本学では、消費生活相談員資格取得を支援する「資格取得支援科目」と、消費生活相談員資格とかかわりの深い「資格取得関連科目」を用意しています。開講される科目については、資格担当教員が指導し、関連情報を提供します。

資格取得支援科目	消費生活特論Ⅰ
資格取得関連科目	消費生活特論Ⅱ
	消費生活特論Ⅲ
	消費生活特論Ⅳ
	消費生活特論Ⅴ
	消費生活特論Ⅵ
	消費生活特論Ⅶ
	消費生活特論Ⅷ
	消費生活特論Ⅸ
	消費生活特論Ⅹ
	消費生活特論研究演習Ⅰ
	消費生活特論研究演習Ⅱ
	消費生活特論研究演習Ⅲ

4. 資格取得に要する費用

受験料13,500円（税込）（2017年度実績）

■ファイナンシャル・プランナーの資格について

1. ファイナンシャル・プランナーとは

ファイナンシャル・プランナー（Financial Planner）またはファイナンシャル・プランニング（Financial Planning）は、FPと表記されますが、資格としてのFPは、顧客の価値や自己実現目標に照らして資産運用・生活設計についてプランニングを行い、将来の夢などを確かなものとするサポートを行う、言わば家計と生活設計のアドバイザーです。日本型金融ビックバンに伴う金融商品と運用方法の多様化、終身雇用制度の崩壊、退職金や年金への不安といった経済的諸課題を抱える今日、生活者が自己責任のもとに生涯にわたってライフスタイルを実現していく上で、パーソナル・ファイナンシャル・プランニングの重要性はますます高まっています。FP関連の学習は、資格取得のみならず、自らの生涯にわたる生活設計における課題克服にも役立てていくことができるでしょう。

2. 資格認定機関

FP資格は、NPO法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会が認定する民間資格としてのAFP（アフィリエイテッドファイナンシャルプランナー）・CFP（サーティファイドファイナンシャルプランナー）と、社団法人金融財政事情研究会、および日本ファイナンシャル・プランナーズ協会が職業能力開発促進法に基づき実施する国家試験合格者に与えられる「ファイナンシャル・プランニング技能士（3級・2級・1級）」とがあります。

3. 資格取得に関する科目

FP資格試験の対象となる科目内容は、「金融資産運用設計」「不動産運用設計」「ライフプランニング・リタイアメントプランニング」「リスクと保険」「タックスプランニング」「相続・事業承継設計」の6分野に分けられています。開講科目のうち、『消費生活特論Ⅴ』では、これらの各分野に関連した制度や課題について生活設計の立場から考察し、あわせて資格関連情報を提供していきます。

4. 資格取得に要する費用

ファイナンシャル・プランニング技能士各級の資格試験の受検手数料は以下のとおりです。ただし3級の受検資格は「FP業務に従事している者、または従事しようとしている者」ということでどなたでも受検が可能です。2級以上の受検には実務経験や下位の資格取得が条件となります。また、受検には事前に受検申請が必要です。

<受検手数料>

3級 3,000円（学科）＋ 3,000円（実技）＝ 6,000円

2級 4,200円（学科）＋ 4,500円（実技）＝ 8,700円

1級 8,900円（学科）＋ 25,000円（実技）＝ 33,900円

（2018年度）

■繊維製品品質管理士の資格について

1. 繊維製品品質管理士とは

昭和56年度に通商産業省の告示（平成9年12月18日廃止）に基づき生まれたもので、日本衣料管理協会が認定する資格です。T E S（Textiles Evaluation Specialist）と繊維業界では呼ばれています。T E Sは、消費者に供給される繊維製品の品質・性能の向上を図ったり、繊維製品の品質について消費者からクレームが出ないように、それらの製品の製造や販売を行う企業のなかで活躍するスペシャリストです。現在、繊維業界の有力企業にT E S資格者が配置されています。

2. 資格認定機関

一般社団法人日本衣料管理協会

3. 資格取得に関する科目

資格を取得するためには、日本衣料管理協会が実施する試験に合格する必要があります。試験は、毎年7月第3日曜日に名古屋試験場を含む、全国6会場で行われます。試験科目は、①繊維に関する一般知識、②家庭用繊維製品の製造と品質に関する知識、③家庭用繊維製品の流通、消費と消費者問題に関する知識、④事例（苦情に対する応用能力の有無が問われます）、⑤論文（繊維産業の現状とT E Sとしての見識が問われます）の5科目で行われます。テキスタイルアドバイザー資格者は、①の「繊維に関する一般知識」の科目が免除されます。

本学では、繊維製品品質管理士資格取得を支援する「資格取得支援科目」と、繊維製品品質管理士資格とかかわりの深い科目を「資格取得関連科目」を以下のように用意しています。

資格取得支援科目	生活の質特論Ⅳ
資格取得関連科目	生活の質特論Ⅰ
	生活の質特論Ⅱ
	生活の質特論Ⅲ

4. 資格取得に要する費用

受験料 14,040円（税込）（予定）

人間生活学研究科履修規程

(1996年 1 月23日制定)
最終改正 2017年 7 月20日

(目的)

第1条 この規程は、金城学院大学大学院学則（以下「学則」という。）第14条に基づき、金城学院大学大学院人間生活学研究科（以下「本研究科」という。）の授業科目等の履修方法を定める。

(授業科目及び単位数)

第2条 本研究科の各専攻の授業科目及び単位数は、学則の別表IIのとおりとする。

(前期課程の指導教員)

第3条 金城学院大学大学院人間生活学研究科委員会（以下「本研究科委員会」という。）は、入学初年度に、学生の研究分野あるいは領域に応じて指導教員及び副指導教員を定める。

2 指導教員は、原則としてその研究分野あるいは領域の研究指導担当教員とする。

3 本研究科委員会において、教育上有益と認められるときは、本学研究所の教員、本研究科兼任・兼任教員に必要な研究指導を委嘱することができる。

4 前各項にかかわらず、学生の親族で2親等以内の者を指導教員及び副指導教員とすることはできない。

5 学生は、指定された指導教員及び副指導教員のもとで研究し、修士論文又は専攻が指定する特定の課題の研究成果（以下「特定課題」という。）の作成をするものとする。

(前期課程の履修方法)

第4条 本研究科の前期課程の各専攻において、2年以上4年以内在学し、30単位以上を修得し、かつ、修士論文又は特定課題を提出するものとする。なお、各専攻の修得単位については、次の各号のとおりとする。

(1) 消費者科学専攻の学生は、研究演習を1科目2単位、特別研究を10単位、研究演習及び特別研究を除く授業科目を18単位以上修得するものとする。

(2) 人間発達学専攻の学生は、専攻する分野の研究演習を1科目2単位、専攻する分野の特別研究を10単位、研究演習及び特別研究を除く授業科目を18単位以上修得するものとする。

2 前項各号に示す研究演習及び特別研究を除く授業科目は、各専攻で開設する科目から10単位以上を修得するものとする。

3 第1項各号に示す研究演習の履修は、専攻する分野以外について、原則として認めない。

(前期課程の研究計画等)

第5条 1年次学生は、所定の期日までに修士論文研究計画書又は特定課題研究計画書を指導教員及び副指導教員に提出するものとする。

(後期課程の指導教員)

第6条 本研究科委員会は、入学初年度に、学生の研究分野あるいは領域に応じて指導教員及び副指導教員を定める。

2 指導教員は、原則としてその研究分野あるいは領域の研究指導担当教員とする。

3 本研究科委員会において、教育上有益と認められるときは、本学研究所の教員、本研究科兼任・兼任教員に必要な研究指導を委嘱することができる。

4 前各項にかかわらず、学生の親族で2親等以内の者を指導教員及び副指導教員とすることはできない。

5 学生は、指定された指導教員及び副指導教員のもとで、研究及び博士論文等の作成をするものとする。

(後期課程の履修方法)

第7条 本研究科の後期課程において、3年以上6年以内在学して、授業科目につき演習科目6単位を含む修了要件単位6単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文を提出するものとする。

2 第1項の規定にかかわらず、在学期間については、優れた研究業績を上げた者と本研究科委員会が認めた場合は、後期課程に1年以上在学すれば足りるものとする。その場合、演習科目は、在学期間中に6単位修得するものとする。

(後期課程の研究計画等)

第8条 学生は、毎年度初めに、研究計画書を、指導教員及び副指導教員に提出するものとする。

2 学生は、毎年度所定の期日までに、研究経過報告書を、指導教員及び副指導教員に提出するものとする。

3 学生は、1年に1回以上もしくは在学期間内に3回以上の、学内外研究雑誌又は学会発表による研究発表を行う。もしくは、それと同等なものとして人間生活学専攻委員会が認定した研究発表を行う。

(各種資格に係る授業科目の履修方法)

第9条 各種資格取得のために必要な授業科目及び単位の修得方法は、当該取得資格の課程表において示すところによる。

(規程の改廃)

第10条 この規程の改廃は、本研究科委員会の議決に基づき、これを行う。

附 則 (一部省略)

附 則 (2017年7月20日人間生活学研究科委員会)

この規程は、2018年4月1日から施行する。



**UNIVERSITY
ACCREDITED
2015.4~2022.3**

本学は、2014年度に実施された公益財団法人大学基準協会による大学評価(認証評価)を受けた結果、大学基準に適合しているとの認定を受けました。このマークは、それを証するものです。

公益財団法人大学基準協会とは：

1947年に、「内外の大学に関する調査研究を行い、会員の自主的努力と相互的援助によって、わが国における大学の質的向上を図るとともに、大学教育の国際的協力に貢献することを目的とする。」として創設された、国・公・私立の大学を会員校とする団体で、2015年度現在正会員として352校が加盟しています。

履 修 要 覧

2018年度

2018年4月 発行

編集／発行 金城学院大学履修支援センター
〒463-8521 名古屋市守山区大森二丁目1723番地
TEL (052) 798-0180
URL <http://www.kinjo-u.ac.jp>

大 学 院
文 学 研 究 科
人間生活学研究科